

官報

號外 昭和二十年十二月十九日

○第八十九回 貴族院議事速記錄第十四號

昭和二十年十二月十八日(火曜日)午前
十時十五分開議

議事日程 第十四號

昭和二十年十二月十八日

午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 昭和二十年度歳入歳出總豫
算追加案(第一號)

第三 昭和二十年度歳入歳出總豫
算追加案(第二號)

第四 昭和二十年度特別會計歳入
歳出豫算追加案(特第一號)

第五 勞働組合法案 政府提出、衆
議院送付)

第一 議會ノ續委員長報告)

○議長(公爵徳川國順君) 報告ヲ致サ
セマス

(宮坂書記官朗讀)

昨十七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政
府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ
旨ヲ衆議院ニ通知セリ

臨時憲法中改正法律案

昭和二十年法律第十八號中改正法律
案

貿易資金設置ニ關スル法律案

農林團體法中改正法律案

官報號外 昭和二十年十二月十九日

貴族院議事速記錄第十四號 議長ノ報告

請願委員長報告 議事日程變更ノ件

勞働組合法案 第一議會ノ續

○議長(公爵徳川國順君) 是ヨリ本日
ノ會議ヲ開キマス、日程第一、請願委
員長報告、請願委員長加藤子爵

○子爵加藤泰通君登壇)

○子爵加藤泰通君 請願委員會ノ第一
回御報告ヲ申上ゲマス、正副委員長互
選ハ去ル十一月三十日ニ行ヒマシ
タ、請願委員會ハ三回開會致シマシ
タ、十二月八日ノ第一回委員會ニ於
キマシテハ、分科ヲ設ケザルコト、並
ニ審査方針等ヲ決定致シマシタ、詳細
ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御承知
ヲ御願ヒマシマス、第二回ノ委員會ハ十二
月十一日、第三回ノ委員會ハ十二月十
二日ニ開會致シマシタ、請願文書表ハ
其ノ第一回ヲ十二月十日ニ作成ノ上報
告致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ一
件デゴザイマシテ、此ノ請願連署ノ人
數ハ二十八名デゴザイマシマス、委員會
ニ於キマシテハ右ノ請願ニ付キマシテ價

重審ヲ致シマシタガ、尙研究ヲ要ス
ル點ガゴザイマシマス、未ダ決定スル
ニ至ツテ居リマセヌ、以上ハ昭和二十
年十二月十七日迄ノ御報告デゴザイマ
ス

○議長(公爵徳川國順君) 議事ノ都合
ニ依リマシテ此ノ際議事日程ヲ變更
シ、日程第五ヲ議題ト爲スコトニ御異
議デザイマセヌカ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナ
イト認メマス

○議長(公爵徳川國順君) 日程第五、
勞働組合法案、政府提出、衆議院送付
第一議會ノ續、委員長報告、委員長河
原田君

○議長(公爵徳川國順君) 是ヨリ本日
ノ會議ヲ開キマス、日程第一、請願委
員長報告、請願委員長加藤子爵

○子爵加藤泰通君登壇)

○子爵加藤泰通君 請願委員會ノ第一
回御報告ヲ申上ゲマス、正副委員長互
選ハ去ル十一月三十日ニ行ヒマシ
タ、請願委員會ハ三回開會致シマシ
タ、十二月八日ノ第一回委員會ニ於
キマシテハ、分科ヲ設ケザルコト、並
ニ審査方針等ヲ決定致シマシタ、詳細
ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御承知
ヲ御願ヒマシマス、第二回ノ委員會ハ十二
月十一日、第三回ノ委員會ハ十二月十
二日ニ開會致シマシタ、請願文書表ハ
其ノ第一回ヲ十二月十日ニ作成ノ上報
告致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ一
件デゴザイマシテ、此ノ請願連署ノ人
數ハ二十八名デゴザイマシマス、委員會
ニ於キマシテハ右ノ請願ニ付キマシテ價

付テ御報告申上ゲマス、本法案ニ付キ
マシテハ、過日本議場ニ於キマシテ
政府カラ御説明ガアリマシタガ、御審
議ノ便宜上先ツ本案ノ趣旨及ビ内容
ノ大體ニ付キマシテ申上ゲタイト思ヒ
マス、本案制定ノ趣旨ハ、即チ經濟上、
社會上ニ於キマスル民主主義ヲ徹底セ
シメ、勞働者ノ經濟上、社會上ニ於キ
マスル地位ヲ向上セシムルガ爲ニ、勞
働者ノ團體行動ヲ是認シ、之ヲ保護
シ、仍チ經濟上ノ地位ニ立ツテ居ルト
認メラレテ居ル所ノ事業主ニ對シ、是
ト對等ノ地位ニ立タシメムトスルモノ
デアリマス、本案ノ内容ニ付キマシテ
其ノ重要ナルモノヲ申上ゲタイト思ヒ
マス、第一ハ、勞働組合トハ何ゾヤト
云フコトヲ定義致シテ居ルデアリマ
ス、即チ勞働條件ノ維持改善、其ノ他
經濟上ノ地位向上ト云フモノヲ、自
主的ニ圖ルト云フコトヲ目的トスル
團體デアルト云フコトヲ明カニシテ
居ルデアリマス、從ヒマシテ、從來
アリマシタ所ノ産業報國會トカ、或ハ
共濟組合ノ如キ團體ハ、本法ニ所謂勞
働組合デナイコトハ申上ゲタイト思ヒ
マス、第二ハ、斯カル團體、即チ勞働組
合ニ對シマシテ保護ヲ加ヘテ居ルコト
デアリマス、其ノ保護ノ主ナルモノハ
次ノ四點デアリマス、第一ハ、勞働組
合ノ組合員デアルト云フ理由デ以テ、
使用者ハ之ヲ解雇シ、又ハ之ニ對シ不
利益ナル取扱ヲスルト云フコトガ出来
ナイト、斯ウ云フコトヲ規定シテ居ル
デアリマス、保護ノ第二點ハ、勞働
組合ガ、勞働爭議等ヲ致シマシタ場合
ニ、正當ナル行動デアリマス時ハ、其
ノ行爲ニ對シ、刑法上ノ責任ヲ免ガレ
シメルト云フコトデアリマス、保護ノ

第三點ハ、同盟罷業等ノ爲ニ、使用者
側ガ、損害ヲ受ケマシタル場合デモ、
其ノ行動ガ勞働運動上當然ト認メラレ
ル場合ニ於キマシテハ、勞働組合又ハ
其ノ組合員ト云フモノハ、賠償ノ責任
ガナイト云フコトヲ明カニシテ居ル
デアリマス、保護ノ第四點ハ、使用者
ト勞働組合トノ間ノ團體契約ト云フモ
ノヲ公認致シマシテ、個人ト個人トノ
契約以上ニ之ヨリ有力ナルモノト致シ
テ居ルデアリマス、即チ之ニ依リマ
シテ勞働組合ヲ權威アルモノト致シ、
組合ノ統制ヲ保チ、兼テ使用者ト勞働
者トノ間ノ爭議ヲ未然ニ防止シ、仍チ
産業上ノ平和ヲ維持シヨウト云フノデ
アリマス、法案ノ内容ニ付キマシテ更
ニ第三點ヲ申上ゲマス云フコト、新タ
ニ勞働委員會ト云フ公的機關ヲ設ケ
コトヲ、此ノ勞働組合法案ノ中ニ規定
シテ居ルデアリマス、此ノ委員會ト
云フモノハ、勞働者ヲ代表スル者、使
用者ヲ代表スル者、及ビ第三者ノ立場
ニアル者ノ中カラシテ、各、同數ヲ以
テ組織セラレルモノデアリマシテ、之
ヲ中央及ビ地方ニソレソレ設ケヨウト
スルモノデアリマス、此ノ委員會ノ仕
事ト云フモノハ、勞働問題ニ付キマシ
テ、或ハ官廳ニ建議シ、或ハ其ノ諮問
ニ應ズル等ノコトヲ致シマスル外、特
ニ重要ナルモノハ勞働爭議ノ發生致シ
マシタル場合ニ、爭議ノ調停、或ハ仲
裁等ノ仕事ニ當ラシメ、其ノ他使用者
ト勞働者トノ間ニ立チマシテ、實際上
ノ世話役ヲサセヨウトスルデアリマ
ス、本案ノ内容中重要ナルモノハ大體
以上ノ通りデアリマス、要スルニ本法
案ハ我が國勞働運動ノ方向ヲ示シ、勞
働運動ニ付テノ根本的規定ヲ爲スモノ

○議長(公爵徳川國順君) 是ヨリ本日
ノ會議ヲ開キマス、日程第一、請願委
員長報告、請願委員長加藤子爵

○子爵加藤泰通君登壇)

○子爵加藤泰通君 請願委員會ノ第一
回御報告ヲ申上ゲマス、正副委員長互
選ハ去ル十一月三十日ニ行ヒマシ
タ、請願委員會ハ三回開會致シマシ
タ、十二月八日ノ第一回委員會ニ於
キマシテハ、分科ヲ設ケザルコト、並
ニ審査方針等ヲ決定致シマシタ、詳細
ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御承知
ヲ御願ヒマシマス、第二回ノ委員會ハ十二
月十一日、第三回ノ委員會ハ十二月十
二日ニ開會致シマシタ、請願文書表ハ
其ノ第一回ヲ十二月十日ニ作成ノ上報
告致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ一
件デゴザイマシテ、此ノ請願連署ノ人
數ハ二十八名デゴザイマシマス、委員會
ニ於キマシテハ右ノ請願ニ付キマシテ價

重審ヲ致シマシタガ、尙研究ヲ要ス
ル點ガゴザイマシマス、未ダ決定スル
ニ至ツテ居リマセヌ、以上ハ昭和二十
年十二月十七日迄ノ御報告デゴザイマ
ス

○議長(公爵徳川國順君) 議事ノ都合
ニ依リマシテ此ノ際議事日程ヲ變更
シ、日程第五ヲ議題ト爲スコトニ御異
議デザイマセヌカ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナ
イト認メマス

○議長(公爵徳川國順君) 日程第五、
勞働組合法案、政府提出、衆議院送付
第一議會ノ續、委員長報告、委員長河
原田君

○議長(公爵徳川國順君) 是ヨリ本日
ノ會議ヲ開キマス、日程第一、請願委
員長報告、請願委員長加藤子爵

○子爵加藤泰通君登壇)

○子爵加藤泰通君 請願委員會ノ第一
回御報告ヲ申上ゲマス、正副委員長互
選ハ去ル十一月三十日ニ行ヒマシ
タ、請願委員會ハ三回開會致シマシ
タ、十二月八日ノ第一回委員會ニ於
キマシテハ、分科ヲ設ケザルコト、並
ニ審査方針等ヲ決定致シマシタ、詳細
ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御承知
ヲ御願ヒマシマス、第二回ノ委員會ハ十二
月十一日、第三回ノ委員會ハ十二月十
二日ニ開會致シマシタ、請願文書表ハ
其ノ第一回ヲ十二月十日ニ作成ノ上報
告致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ一
件デゴザイマシテ、此ノ請願連署ノ人
數ハ二十八名デゴザイマシマス、委員會
ニ於キマシテハ右ノ請願ニ付キマシテ價

重審ヲ致シマシタガ、尙研究ヲ要ス
ル點ガゴザイマシマス、未ダ決定スル
ニ至ツテ居リマセヌ、以上ハ昭和二十
年十二月十七日迄ノ御報告デゴザイマ
ス

○議長(公爵徳川國順君) 議事ノ都合
ニ依リマシテ此ノ際議事日程ヲ變更
シ、日程第五ヲ議題ト爲スコトニ御異
議デザイマセヌカ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナ
イト認メマス

云々コトガ出來ルノデアリマス、唯
規定ト致シマシテハ、勞働者ノ團
結ト相違ビマシテ、最モ重視セラレ
レバナラヌモノハ、勞働者ノ問題
アリマス、勞働組合ニ關スル法規ヲ制
定スル以上ハ、勞働者ノ紛争ノ解決
云フコトニ付キマシテ、今日ノ時代
即チ勞働者ノ紛争ノ解決ニ必要トスル
トハ當然ト考ヘラレルノデアリマス、
此ノ兩者、即チ勞働組合法ト云フモノ
ト、勞働者ノ紛争ニ關スル法規ノ二ツガ相
並ニテ初メテ茲ニ勞働運動ノ基本法ト
シテ完備ヲ成スヤウニ思ハレルノデア
リマス、本法案ニ依リマシテ、勞働委
員會ナルモノガ新ラシク設ケラレマシ
テ、此ノ委員會ニ於テキマシテ、爭議ノ
調停、或ハ仲裁ヲ爲スト云フコトニ定
メラレテ居ルノデアリマス、調停
ノ方法、或ハ調停ノ效果ト云フヤウナ
コトニ付キマシテハ、何等規定セラレ
テ居ラナイノデアリマス、我が國ハ既
ニ大正十五年ニ勞働爭議調停法ト云フ
モノガ制定セラレマシテ、今日尙現存
致シテ居ルノデアリマス、當時ト
今日ト比較致シマシレバ、社會上ノ
情勢ニ於テキマシテ殆ト問題ニナラヌ
デアリマス、加之此ノ調停法ト云フモ
ノハ、勞働組合法ト云フモノガ未ダ制
定セラレナカッタ以前ノ立法デアリマ
ス、從ヒマシテ今日勞働組合法ト云フ
モノガ制定サレマスルナラバ、是ト共
ニ現時ノ情勢ニ適應スル所ノ爭議調停
法ト云フモノガ制定セラレテ然レベシ
ト考ヘラル、ノデアリマス、此ノ點ニ
關シマシテ、厚生大臣ノ御答辯ニ依リ
マス、組合ト相違ビ新ラシキ勞
働爭議法ヲ制定シタイ積リデア
ツタガ、事急ヲ要シ、組合法ノ制
定ト云フモノハ一日ノ早キヲ爭
フト云フ事情ガアリマシタノデ、
先ヅ本法案ヲ提出シタ次第デアリマ
ス、從ヒマシテ、次ノ議會ニハ必ず時
宜ニ應ジタ勞働爭議調停法ヲ提案スル
積リデアルト云フコトデゴザイマシ
タ、尙勞働組合ハ賃金又ハ給料ニ依ッ
テ生活致シマスル者ハ、如何ナル職業
ヲ問ハズ之ヲ作ルコトガ出來ルノデア
リマス、ガ併シ、警察官吏、或ハ消防
官吏等ハ勞働組合ヲ作ルコトハ禁止セ
ラレテ居ルノデアリマス、又一般ノ官
吏、或ハ公吏等ニ付キマシテハ、勞働
組合ハ作ルコトガ出來マスルガ、是等
ノ者ニ對シマシテハ、別ニ規定ヲ設ケ
ヨウト云フコトニナツテ居ルノデアリ
マス、以上ハ本法案ノ内容ノ主ナルモ
ノデアリマス、之ニ對シマシテ、委員
會ニ於テキマシテハ熱心ナル質疑應答ガ
行ハレタノデアリマス、其ノ主ナルモ
ノヲ御參考ニ御披露申上ゲタイと思
ヒマス、第一、警察官吏、消防官吏等
ニ付キマシテハ「ストライキ」ハ禁止セ
ラレテ居ルケレドモ、禁止シテモ宜イ
ガ、併シ組合ノ作成ハ許シテモ宜イデ
ハナイカト斯ウ云フ御質問ガアリマシ
タ、之ニ對シマシテ、政府ハ、警察官
ト云フ者ハ國內ノ治安ニ最モ深い關係
ヲ持ツテ居ルモノデアラカラシテ、勞
働組合ノ結成モ許サヌ方ガ宜シイト思
フ、尙外國ノ立法例ヲ見マシテモ、組
合ノ行動ニ對シ居ル所ニ於テキマシテモ、組
合ノ制限ヲ設ケテ居ルト云フ答辯デアリ
マシタ、第二ハ、警察官吏以外ノ一般官
吏ニ付キマシテハ、勞働組合ノ結成
ハ之ヲ認メテ居ルケレドモ「ストライ
キ」ニ付テハ一體ドウスル積リデア
ルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府
ハ答辯ハ、官吏等ノ勞働爭議ハ或
ハ將來制定セラレマス所ノ勞働爭議調
停法中ニ於テキマシテ、調停又ハ仲裁
判ニ付シ、若シ是ガ成功シナカッタ場
合ニ初メテ之ヲ許スカ、或ハ場合ニ
依リマシテハ、爭議ノ中止ヲ命ジ得ル
ヤウナ規定ヲ設ケタイ積リデアルト云
フコトデアリマシタ、尙公益事業ノ從
業員ノ「ストライキ」ニ付キマシテモ、
其ノ仕事ノ性質ト云フモノガ、公益ノ
利益ニ直接至大ノ關係ヲ持ツテ居ルガ
故ニ、是等ノ職場ニ於テキマスル爭議
ニ付キマシテモ、相當ノ規定ヲ次イデ制
定セラレベキ勞働爭議法中ニ設ケル積
リデアルト云フ答辯デアリマシタ、第
三ハ、現在運輸省關係ノ鐵道現業委員
會トカ、或ハ郵便院トカ、大藏省等ニア
リマスル現業員ノ團體ニ付キマシテ、
政府ハ本法施行後ハ、如何ナル方針處
置ヲ執ル積リデアルカ、斯ウ云フ質問
ニ對シマシテ、政府ハ、是等ノ團體
ニ付キマシテハ、本法ニ依リ勞働組合ト
云フモノト、更ニ共濟組合ト云フヤウ
ナ二ツノ團體ニ分ケテ行キタイ、斯ウ
云フ御答デアリマシタ、第四ニ、現在
ノ世相ハ所謂自由主義、民主主義ヲ履
違ヘテ、權利ノミヲ主張シ、義務ヲ忽セ
ニスル傾向ガアル、殊ニ青壯年ノ間ニ
然ルヤウニ思ハレル、本法制定ト共
ニ、特ニ青壯年ニ勤勞意欲ヲ昂揚スル
コトガ誠ニ必要ト思フガ、政府トシテ
ハ最モ留意スベキ所ト思フ、之ニ對シ
政府ハ何等カノ工夫成案ガアルカ、斯
ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、國民
各自ヲシテ其ノ個性ニ目覺メシメ、之
ニ依ツテ各自ノ責任觀念ヲ深クシテ行
クヤウニ國民的教養ヲ昂メテ行キタイ
積リデアルト云フ答辯デアリマシタ、
第五ニ、俸給、賃銀ノ引上運動ト云フモ
ノハ、將來益々盛ナルト思フガ、是ハ
ウツカリスル、所謂惡循環ト云フモ
ノニナツテ、政府ガ折衝努力シテ居ル
所ノ惡性インフレニ對スル防止策ト
矛盾スル結果ニナル處ガ大ニアルト
思フ、就テハ俸給、賃銀ノ無制限上昇ヲ
阻止スルガ爲メ、何等カノ基準ヲ設ケテ
ハドウカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシ
テ、政府ハ、現行ノ賃銀統制令ト云フ
モノハ、現在ノ物價ニ對シマシテ適當
デナイ、斯ルガ故ニ、五割乃至八割ノ
引上ヲ行フ積リデアルガ、併シ賃銀ト
云フモノハ常ニ物價ト比較シテ考ヘル
必要ガアル故ニ、永久不變ノ基準ヲ設
ケルト云フコトハ困難デアルト云フ答
辯デアリマシタ、第六ハ、事業場ニ於
テキマシテ、從業者ハ總テ勞働組合員ト
ルコトヲ必要トスルノ問題ニ付キマシ
「クロードショップ」ノ問題ニ付キマシ
テ、是ハ一體政府ハドウスル積リデア
ルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政
府ハ、此ノ問題ハ、各事業場ニ於ケル
使用者ト、從業者兩當面者ノ任意ノ協
定ニ委セル積リデアルト云フ答辯デア
リマシタ、第七ハ、共濟事業、或ハ福
利事業ノ爲メ施設シマシタル所ノ基金
ヲ、政治上ノ目的ニ使用スルコトハ差
支ナイカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、
政府ハ、總會ノ決議ヲ得レバ差支ナ
イ、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、第八
ハ、勞働運動ニハ往々所謂惡「プロ
カー」ト云フモノガ介在シテ私利ヲ
營ミ、之ガ爲メ却テ勞働者ニ迷惑及ス
ト云フコトガ往々ニシアル、就テハ是
等ヲ排除スルヤウニシテハドウカト云
フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシ
テ、政府ハ、惡「プロカー」ヲ排除
ト云フモノハ、是ハ法律ニ依ツテ規定ス
ル限ニハ行カナイ、自然淘汰ニ委ス方
ガ宜シイト云フ答辯デアリマシタ、尙
現在ノ如キ經濟界大變遷ノ際ニ於テキ
マシテ、事業ノ經營ハ誠ニ困難デアリ
シテ、勞働者ノ復員ト云フモノハ容易
デナイト云フ此ノ時代ニ於テキマシテ、
本法施行ヲ期シテ致シマシテ、勞働者
ヲ見ルヤウニナレバ、國民一般ノ不幸
ニ大ナルモノガアル、仍テ本法ノ運
用ニ付キマシテハ、政府ニ於テ特ニ適
切ナル考慮ヲ盡サレバヤウニシタイ、
殊ニ本法ノ運用ニ當ル官吏ハ、從來ノ
或ハ勞働界ノ事情ニ精通シテ居リ、ソ
レヨリ所謂事業會社トカ、或ハ勞働界
ニ年季ヲ入レテ修業シタ云フヤウナ
人物ヲ當ラシメルヤウニシテ置キタイ、
斯ウ云フ希望ノ開陳モアリマシタ、又
勞働組合法ト共ニ、産業基本法トモ謂
フベキモノヲ作りマシテ、勞働者ノ地
位ノ向上ト共ニ、産業界ノ發達ヲ助長
スベキ國家ノ根本方策ヲ定メタラド
ウカト云フヤウナ意見ノ開陳モアリマ
シタ、其ノ他重要ナ質疑應答ヤ、或ハ意
見ノ御開陳モアリマシタガ、是等ハ速
記録ニ就テ御覽ヲ願ヒマス、斯クシテ
討論ニ入りマシタル處、兩委員カラ、
勞働組合ノ結成ト云フモノハ、勞働者
ノ地位ノ向上ノ上ニモ、亦産業發展ト
云フ上ニモ、共ニ極メテ必要デアリ、
且多年ノ懸案ヲ解決スルコトガ出來
タト云フ點デ、誠ニ同慶ニ堪ヘナイ、願
クバ勞働者ノ經濟上、社會上ノ地位ノ
向上ト共ニ、法中ニモ議論シテ居リマ
スル所ノ一般經濟ノ興隆ニ一層貢獻ス

ルヤウ、行政上ノ措置ヲ望ム、斯ウ云フ意味ノ意見ヲ述ベラレマシテ、本案賛成ノ意ヲ表明セラレマシタ、厚生大臣ハ之ニ對シ、本法運用ニ付テノ政府ヘノ御希望ハ篤ト了承シ、萬全ヲ期スル積リデアルト云フコトヲ申述ベラレタノデアリマス、採決致シマシタルト決定致シタル次第デアリマス、之ヲ以テ私ノ報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川閑順君) 別ニ御發言モナクレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵徳川閑順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵徳川閑順君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナクレバ、全部ノ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵徳川閑順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵徳川閑順君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス、議事ノ都合ニ依リマシテ、午後一時迄休憩ヲ致シマス

午後一時三十分開議

○議長(公爵徳川閑順君) 報告ヲ致セマス

〔宮坂書記官朗讀〕

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

農地調整法中改正法律案可決報告書

本日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ直ニ裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

勞働組合法案

○議長(公爵徳川閑順君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、日程第二、昭和二十年度歳入歳出總預算追加案第一號、日程第三、昭和二十年度歳入歳出總預算追加案第二號、日程第四、昭和二十年度特別會計歳入歳出總預算追加案第一號、會議、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナシト認メマス、副委員長矢吹男爵

一昭和二十年度歳入歳出總預算追加案(第二號)

一昭和二十年度特別會計歳入歳出總預算追加案(第一號)

○男爵矢吹省三君 委員長八條子爵ガ、御登壇ニナリマシタケレドモ、急ニ御不快デ、此ノ壇上デ御報告ガ出来マセヌド、副委員長タル私カラ委員會議ノ經過致シ結果ヲ御報告申上ゲマス、其ダ不十分ナ報告ト存ジマスケレドモ、御許シテ輕キマシテ、足リマセヌ所ハドウゾ追記録デ御承知ヲ願ヒタマヒ思ヒマス、豫算委員會ニ付託サレマシタ議題ハ、昭和二十年度歳入歳出總預算追加案第一號、同追加案第二號、昭和二十年度特別會計歳入歳出總預算追加案第一號、此ノ三案デゴザイマス、經過ヲ申上マス、去ル十二月十二日衆議院カラ邊リ受ケマシテ、十三日カラ委員會ヲ開會致シ、短時間ニ於テコトデゴザイマスカラ、先例ニ依リマシテ、分科ニ付託セズ、委員會ニ於テ總テ審議スルコトニ御承認ヲ得タノデアリマス、十七日迄五回委員會ヲ開キマシテ、大藏大臣ノ説明ヲ先ツ豫算案ニ付テ、質疑應答ヲ重ネマシテ審議ノ上、討論ニ移リ採決ノ結果、全會一致ヲ以テ昨日可決致シタルデアリマス、豫算案ノ内容ヲチヨット申上ゲマス、追加案第一號ハ臨時議會開會ニ要スル經費デアリマシテ、歳入歳出共

十八萬二千餘圓、歳入ハ前年度ノ剩餘金ヲ以テ充テタルコトニナツテ居リマス、追加案第二號ハ歳入歳出共二億五百四十餘萬圓デゴザイマシテ、内容ハ、大藏省所管ニ於テ鹽田ノ風水害復舊補助三千五百四十餘萬圓、鹽緊急増産對策ニ要スル經費一億二千萬圓、合計一億五千五百四十七萬餘圓ガ大藏省所管デアリマス、農林省所管ト致シマシテ、農地制度改革ニ要スルモノガ三百四十餘萬圓、粉食促進施設ニ要スル經費ガ四千六百五十餘萬圓、合計四千九百九十五萬餘圓ヲ計上シテゴザイマス、之ニ對スル財源ハ、歳入補填公債金ヲ以テ支辨スルコトニナツテ居リマス、之ヲ彙ニ第八十六回帝國議會ニ於テ成立致シマシタル昭和二十年年度一般會計豫算額二百八十九億五千餘萬圓ニ加算致シマスト、本年度一般會計豫算總額ハ二百九十一億五千六百餘萬圓ト相成ル次第デゴザイマス、而シテ公債發行額ハ、第八十六議會ニ成立致シマシタル總豫算額計上シタル歳入補填公債百十二億千三百七十餘萬圓ニ今回ノ分ヲ加ヘマスト、歳入補填公債ノ金額ハ百十四億千九百十餘萬圓トナルデアリマス、尙本年度ニ於テハ、鹽災ノ影響ニ依リ相當多額ノ歳入ノ減少モ見込マレマスシ、從ツテ今後更ニ歳入補填公債ノ發行額餘額ナクサレルモノト考ヘラレマス、併シ目下ノ處、其ノ明確ナル數字ハ判明致シマセヌド、何レ次期ノ議會ニ於テ、其ノ措置ニ付、協賛ヲ願フコトニ相成ルモノト大藏大臣カラ御説明ガゴザイマシタ、次ニ特別會計追加豫算案即チ特別第一號ハ、公債費特別會計ノ追加デゴザイマス、是ハ以上申シマシタ一般會計ノ追加第二號ノ

財源全部ヲ歳入補填公債金ヲ仰グ爲ニ、公債金特別會計ニ於テ斯カル追加ヲ要スルコトニ相成ツタルデアリマス、豫算案ノ説明ノ後、大藏大臣カラ我が國ノ財政ノ前途、經濟界ノ前途等ニ付テ御所見ノ御開陳ガアツタノデアリマス、ソレヲ簡單ニ申上ゲマス、二十一年度ノ豫算ノ骨格トナリマスモノハ、普通歳入ハ租税及ビ專賣益金共ニ減少ガ著シクアリマシテ、大體百二十億圓程度ヲ見込デ居リマス、是ハ二十年度豫算ニ比較致シマス、五十七億餘萬圓ノ減少ニナツテ居ルデアリマス、歳入ノ方ハ價格差補助金ノ徹底の檢討ヲ致シ、其ノ他ノ補助金ノ廢止、又大幅ノ削減ヲスル積リデアリマシテ、又行政整理モ致シマシテ、歳入ハ百三十六億圓程度ニ壓縮スル考デアリマス、併シナガラ尙歳入不足ハ十六億圓程アルノデアリマス、其ノ他ニ來年度ニ於テハ新見ニ巨額ノ歳入増加ヲ見込ムモノガアルノデアリマシテ、即チ戰災復興費、食糧増産對策費、引揚邦人援護費、恩給制度全般ニ互ル徹底の檢討ニ伴フ合理的ノ施設ノ爲ニ要スル經費、其ノ他社會施設費、又賠償及ビ在外資産ニ對スル措置等マダ確定シテ居リマセヌケレドモ、是モ考慮ニ入レル必要ガゴザイマス、從ツテ今後ノ國庫負擔ハ大ナル額ニ上ルコトガ豫想サレルデアリマス、戰時中我が國ノ財政ガ國債ニ依存スルコトガ多ク結果、多額ノ國債ノ償却ノ爲ニ革新的手段ヲ講ジナケレバナラス必要ガゴ、此起ツテ居ルノデアリマス、然ラザル限り國家財政ノ破綻、或ハ惡性「インフレーション」ノ進進ハ避ケラナイ狀態デ

アリマシテ、ソレ故ニ新タニ戰時利得稅及比價稅ヲ起シマシテ、我が國民ノ資產推定額四、五千億圓ノ約四分一タル一千億圓程度ヲ、ソレ等ノ兩稅カヲ歲入ヲ得マシテ巨額ノ國債ヲ償却シテ通貨價值ノ安定ヲ圖ラウト思フテ居ル次第デゴザイマス、斯クノ如キ調期のノ措置ヲ斷行致シマシテモ、尙相當巨額ノ國債ヲ殘ルノデアリマス、且今後毎年豫算ニ於テ、普通歲入ヲ以テ、普通歲出ヲ賄フノ鐵則ヲ堅持致サナケレバナラヌノデアリマス、毎年度ノ經常歲入ヲ相當強化スル必要ガアルノデアリマス、ソレ故ニ、一時的ナル以上ノ兩稅ヲ設ケマス外ニ、恒久的ナリテ入增加ノ方法トシテ、稅制ノ改革ヲスル必要ガアルノデアリマス、即チ不動產、配當利子等資產取得ニ重課シテ分類所得稅ヲ増徴スル、尙洋動購買力ヲ吸收スル爲、酒、其ノ他嗜好品等ニ重稅ヲ課スル、又煙草ノ價上ゲヲシテ專賣局益金ヲ増加スル、是等ノ措置ヲ斷行致シマシテモ尙歲入不足ノ虞ガアルト思フテ居ルノデアリマス、賠償及ビ在外資產等ニ對スル措置ニ付テハ萬全ノ措置ヲ講ズル考デゴザイマス、又補償ノ問題ニ付キマシテハ、軍需企業等ニ對スル補償ハ、今日民需生産ノ活動ヲ急進ニ促シ、且國民經濟ノ圓滑ナル運行ヲ確保スル必要上、嚴正ナル處理ノ下ニ適當ナル補償ヲ實行スルコトヲ必要ト考ヘテ居ルノデアリマス、國民生活ノ安定、生産促進ノ爲ニハ、通貨價值ノ安定、物價秩序ノ再建ヲ必要トシマス、今日崩壞トモ稱セベキ事態ニ立到ツテ居ル物價ノ體系ニ付テハ、單ニ個々ノ物價ノ價格形成ノ問題トシテ考ヘルベキモノデハナク、又財政金融ノ

面カラノミデハナク、生産、輸送、配給、勞務、貿易、賠償等、國民經濟ノ有ラユル方面カラ綜合的ニ檢討シテ合理的ニ物價體系ヲ形成シナケレバナラヌモノト思フテ居リマス、之ニ付テ政府ハ責任ト熟慮ヲ以テ真正面カラ之ニ當ル者デアルト云フコトヲ、大藏大臣ハ披露サレタ次第デゴザイマス、以上ガ大藏大臣ノ豫算委員會ニ於ケル御説明デゴザイマス、次ニ豫算委員會ニ於ケル質疑應答ノ大要ヲ申上ゲタイト存ジマス、今後ノ歲出ノ見透シ、或ハ歲入ノ見透シ等ニ付テ御質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シテ御答ハ、財產稅、戰爭利得稅ニ依ツテ國債ガ大部分減少致スノデアリマス、利拂ガ三十六、七億減少スル、恩給費モ亦減少致スノデアリマス、合セテ八十數億圓ノ歲出削減トアリマス、之ニ對シテ社會施設トシテ、三、四十億圓ヲ要スルダラウシ、ソコニ餘裕ガ尙四、五十億圓アル、之ヲ以テ賠償金、駐屯費ノ如キモノヲ賄フテ行ケルカト考ヘテ居ル、尙其ノ外ニ不足ノ時ハ官業拂下、其ノ他ノ方法ヲ行フ考デアリマス、次ニ戰爭利得稅ノ、戰時利得ノ基準ハ何デアルカ、又財產評價ノ方法、徵稅ノ時期ハ如何デアルカ、又課稅スルニ付テハ戰後復興ガ程度出來タ後稅力アル時期ヲ選バナケレバナラヌト思フガ、ソレ等ニ付テ政府ハドウ考ヘラルカト云フ御質問ガゴザイマシタ、之ニ對シテ大藏大臣ノ御答辯ハ、戰時利得稅ハ戰爭ニ關聯シ、又ハ戰爭ノ結果得タ利益ニ課稅セムトスルモノデアール、併シ普通ノ財產増加ト、戰時利得トノ關係ハハ觀念的ノモノデ、戰爭利得ノ基準ハ、資料ノ關係、其ノ他種

種ノ理由ニ依ツテ、昭和十五年ニ基準ヲ置キ、明年ノ或時期トノ間ノ財產ノ増加ヲ目標トシテ居ルノデアリマス、而シテ適正ナル財產増加ヲ考慮スル爲ニ扣除額、又ハ物價騰貴ノ關係、其ノ他ニ付テハ、十分考慮シヨウト思フテ居リマス、戰時利得稅ヲ創設セムトスル趣旨ハ、惡性インフレ及ビ財政ノ破綻ヲ防止セム爲ノ「デフレ」政策、先ヅ之ヲ實行シテ、財政經濟ヲ健全ナルモノトシヨウト思フテ居ル、戰時中國民ノ中ニ一方ニ財產ヲ喪失シタ者ガアルニモ拘ラズ、他方ニ巨利ヲ博シテ居ル者モアル、是等ノ不平等、不平均ヲ此ノ際際除シヨウト思フテ居ル、財產稅ハ課稅ニ堪ヘラ擔稅力アル人カラ徵收シテ、累進的ニ課稅ヲスルノデアリマシテ、固ヨリ其ノ財產ニ付テハ負債ヲ控除スルノデアリマス、財產ノ沒收ト云フ意味デハナイ、而シテ是等ノ兩稅ニ依ツテ物價ハ安定シ、其ノ後ハ健全ナル經濟發展ヲナスモノト豫想シテ居ル、又財產評價ノ點ハ重大デアラルカ、出來ルダケ全國ヲ細カニ分ケテ、中央、地方ニ評價委員會ヲ設ケテ、各地ノ事情ニ適合シテ定メヨウト思フテ居ルノデアリマス、徵稅ノ時期ハ技術的ニ準備モ要スルノハシナイ考デアアル、軍需產業ノ補償ニ關シテハ質問ガアリマシタ、軍需產業ニ關スル補償問題ハ、大藏大臣ハ補償ヲスルト云ツテ居ルガ、補償ヲ爲スト大藏大臣ガ言明サレタノデ、低迷氣分ニアル產業界ニ安定感ヲ與ヘタガ、併シ他面ハ共ニ國家財政上實行不可能ナリト云フ議論モアツテ迷フ次第ダガ、財政上ノ危惧ナシトスル大藏大

臣ノ所信ヲ聽キタイ、大藏大臣ノ御答ハ、軍需產業ト云ツテモ純然タル兵器ヲ造ルモノ以外ハ民需企業ノ變形デアール、終戰後ハ民需企業ニ復歸スルモノデアリマシテ、軍需企業補償ハ即チ再生産復活ヲ狙フタモノデアアルノデアリマス、而シテ企業ニシテ戰災ヲ蒙リタルモノガ火災保險金、戰災保險金ヲ受取ルハ、是ハ契約ニ依ルモノデアアル、軍需產業ニ對スル補償ハ、軍需生産ニ關スル契約ノ打切、或ハ設備擴張ノ補償金等デアリマシテ、是等ハ嚴重ニ審査シテ應答加ヘナケレバナラヌモノト考ヘテ居ル、サウシテ今後民需產業ハ大中小企業孰レモ極メテ必要デ、之ガ再開ノ爲ニ國家補償モ必要ナモノト思フテ居ルノデアリマス、即チ軍需產業補償ハ再生産復活ノ爲ノ必要カラデアアルノデアリマス、計數的ニハツキリ申上ルベキスケレドモ、生産ガ舉リ、物價ガ安定スレバ、財政モ亦安全性ヲ確保スルモノデアアルト考ヘテ居ル、在外資產ノ中ニ朝鮮、臺灣ニ於ケル企業、經濟上ノ投資ヲシタコトハ戰爭ニ依ル侵略的ノモノトハ全ク異ツテ居ル、從ツテソレハ沒收セラルベキ筋合ノモノデハナイ、又朝鮮ニ於テ朝鮮人ガ内地人ノ財產ヲ掠奪シタ事實ガアルガ、是等ニ對シテ相當賠償ヲ主張スベキデハナイカ、此ノ質問ニ對シテ總理ノ御答ガアリマシテ、臺灣、朝鮮ノ投資ハ全ク是ハ侵略デハナイ、併シ聯合國カラ言フト大東亞戰爭ハ侵略的ト見テ居ル、其ノ賠償ノ爲ニ在外資產ヲ充テヨウト思フテ居ルノデ、臺灣、朝鮮ニ於ケル我が國ノ投資ガ侵略的ノモノデナイトシテモ、賠償ノ一部ニ充テラレコトハ已マラ得ナイモノデアアル

ト云フ總理ノ御見解デアリマス、又北鮮方面ニ於テ、終戰直後邦人ノ生命財產ノ損害ヲ受ケタノ事實デアアルガ、今マダ十分明確ナ報告ガナイ、又調査ノ方法モナシ、是ハ明瞭ニナツタ上デ對策ヲ定ムベキモノデアアルト思フ、次ニ產業經濟運営ノ根本方針ニ付テ御質問ガゴザイマシテ、戰時中ノ統制ガウマク行カナカツタコトハ事實ダ、併シ是ハ統制ガマツカツタ爲デ、統制ガナケレバ斯ク迄戰爭ヲ遂行出來ナカツタ、産業ノ民主化ハ全然自由放任ノ意味シナイト思フガ、今後産業經濟運営ノ根本方針何處ニ置クノカ、此ノ質問ニ對シテ、商工大臣ヨリ、單ナル自由放任ハ産業ノ民主化デハナイ、國民生活ノ安定ヲ圖リ、其ノ公正ナ利益ヲ確保スルニハ強度ノ統制ヲ依然トシテ必要トスル、現在ノ如ク物資供給ガ著シク均衡ヲ失シテ居ル際、徒ニ自由放任ニ委スノハ物資ノ偏在ト價格ノ昂騰ヲ招キ、一般國民生活ノ危殆ニ陷レル虞ガ多イデアアル、故ニ國民生活ノ最低限度ヲ確保ノ爲、所要ノ統制ヲ持續スルコトハ、絕對ニ必要ダト考ヘル、併シ需給困難ナル産業上ノ基礎物資、民生ノ必需物資ハ、出來ルダケ統制ノ枠ヲ外シテ自由競争ニ依ツテ出廻リヲ促進シタイ、唯統制ハ今迄ノ官治統制ハ缺點ガアルカラ、出來ルダケ自主的統制ニ依ラシメムト考ヘテ居ル、尙今後産業基本法ヲ作ラウト思フテ居ルガ、戰後産業安定ト向上ヲ圖ル爲、必要ナル産業組織ハ民主主義化ヲ根本精神トシ、中小商工業ノ維持育成ヲ中心トスル共同利益ヲ保護助長シ、業界ニ對スル國家ノ直接介入ヲ少クシテ、必要ナル統制ハ自主的ニセシム

ル考デアル、而シテ産業基本法
ハ次期ノ議會ニ提出シタイ考デアル、
次ニ今日ノ公定價格ハ不合理ナ、爲ニ
不良品ヲ不正ナル關係デ以テ販賣ス
ル者ガ越過シ、良品ヲ公定價格ニ販
賣セムトスル傾向目ナ商工業者ハ其ノ
維持ガ出来ナイ、ソレ故ニ不合理ナル
公定價格ハ寧ろ廢シタガ宜シ、而シ
テ公定價格ヲ改メルトスレバ、新シイ
價格ハ孰レニ標準ヲ置クノカ、又無用
ノ統制組合ノ如キハ廢シタガ宜シト
思フ、之ニ對シテ商工大臣ハ、公定價
格ノ實情ニ適セナイコトハ同感デア
リ、改訂シタイと思フ、但シ現在ノ價
格統制ヲ野放シニスト云フコトハ宜
クナイ、仍テ無用ノ統制ヲ廢シ、業
者ノ自主ノ統制ニ依リテ堅實ナル業界
ノ發達ヲ期シ、消費者ノ便宜ヲ圖ラ
ウと思フ、日用品ハ數千萬種ニ及
ブ、一々其ノ價格ノ改訂ハ容易デナ
イ、從ツテソレヲ放ツテ置ケバ關係場
ガ出ルノデ、腰ダテ決定シヨウト思
フテ居ル、又統制組合ニ付テハ、之ヲ
改組セムト思フテ居ル、而シテ必要ナ
ルモノニ付テハ其ノ組合ノ自主ノ作
ヲセヨウト考ヘテ居ル、大藏大臣カラ
之ニ關聯シテ又御答辯ガゴザイマシ
テ、一々ノ商品ノ價格形成ハ不合理
ナ、但シ物ノ少シ今日特ニ或意味ノ統制
ガ必要デ、即官價ノ机上ノ統制、止メ
テ、主要物資ニ付テ自主ノ統制ニ依
ラセムト考ヘテ居ル、大藏省ニ物資部
ヲ作ツテ、從來各省ニ於テ所管シタモ
ノヲ一元的ニ其處デ所管シヨウト思
フ、居ル、次ニ戰後ニ於ケル輸入物資ノ
對付シテ輸出工產品ノ振興ガ必要
ナ、而シテ是ハ綜合的ニ合理的ニヤル
必要ガアル、政府ト民間團體トノ協力

ヲ要スルト思フガ、之ニ對スル具體的
方策ハ如何デアルカ、商工大臣ガ御答
ヘニナリマシテ、美術工產品ノ振興ハ
必要デアアル、工產品ハ日本ノ國民性ニ
適シテ、又戰時中其ノ技術ノ保存ニ方
法ヲ講ジテ來タ、今後一層之ガ助長發
達ヲ期シタイと思フテ居ル、企業許
可、資材ノ許可等十分輕便ヲ致シタ
イ、又轉廢業者ノ復歸ニモ便宜ノ與
タイト思フ、商工省ノ工業指導所ノ整
備指導ニ力ヲ入レテ、熟練徒弟ノ養成
所ヲ作ル考デアアル、又見本品ノ展示會
ヲ各地デ開催シテ、民間ノ美術工產品
ヲ發揮セシメタイト思フ、又取敢テ東京
ニ輸出商品陳列所ヲ開設シテ、追ッテ京
都其ノ他ノ都市ニモ官立デコレ等ノ
陳列所ヲ設ケタイ考デアアル、近來街ノ
中ニ往々見ル粗惡な進駐車相手ノ土產
品ノ如キハ誠ニ遺憾ナ感ジガ多イノ
デ、土產品ニ付テ、全國的ニ人ヲ派シテ
優良土產品ヲ買入ヲ斡旋シヨウトシ
テ居ル次第デアリマス、石炭増産ニ付
テ御質疑ガゴザイマシテ、石炭ノ増産
ニ付テハ、結局食糧ノ配給ガ重要ナ問
題ニナツテ居ル、現在ノ配給狀態ハド
ウデアルカ、商工大臣ハ「農林大臣カ
ラ御答テ、十月十五日ノ閣議ノ決定
デ、石炭礦夫ニ對シテ一人一日五合ト
シタ、現在ニ於テ九州方面ニ於テハ實
行セラレテ居ル、當該方面ニ於テハ、甘
藷ト併セテ五合ノ割合デヤツテ居ル、
北海道ハ米ノ現物ガナイノデ、炭礦ノ
ミナラズ食糧ガ困難ナ實情ニアリ、彙
ニ秋田、青森方面カラ米ヲ送ツタレ
ドモ、十分炭礦ニ送行シ渡ラナカッ
タ、其ノ後新潟カラ六十石バカリ輸送
シテ炭礦ヘ送ツタノデアリマス、唯炭

夫ノミナラズ家族ニモ三合以上ノ配給
ヲシテ賫ヒタイ云フ要索ガアルノデ
アリマスガ、農林省トシテハ之ニ應ジ
難イ現在ノ狀況デアリマス、石油ノ開
題ニ付テ御質問ガゴザイマシタ、終
戰後石油ノ國內生産、輸入、人造石
油、「アルコール」等ノ代用燃料、其ノ
配給等ニ付テ政府ノ考ヲ聽カレマシ
タ、商工大臣カラ、國內生産ハ三十
萬「キロリットル」デ、年間ノ民間ノ
需要ハ二百六十萬「キロリットル」デ
アル、從ツテ其ノ多クハ輸入ニ依ラナ
ケレバナライノデ、聯合軍ノ司令部
ニソレヲ懇請シテ居ル、原油ノ輸入ニ
對シテ日本ニハ精製能力ハ相當今デモ
一千「キロリットル」、其ノ中デ漁業
用ニ充テルモノガ六千六百「キロリッ
トル」ヲ指定セラレテ居ルノデアリマ
ス、故ニ其ノアト尙輸入ニ付テ極力懇
請ヲシテ居ル所デアリマス、「アル
コール」ハ三萬五千「キロリットル」ヲ
燃料トシテ豫定シテ居リマス、又軍ノ
手持ノ中カラ十萬「キロリットル」ハ
民需ニ渡サレテアリマス、本年ハ國內
精油並ニ輸入許可ガアレバ、百萬「キ
ロリットル」ガ國內ノ需要ニ振向ケラ
レル豫定デゴザイマス、人造石油工場
ハ大體硫酸工場ニ轉換ラサセツ、アリ
マシテ、又石油ノ配給ニ付テハ、專賣
法ガ廢止サレテモ配給規則則ハ尙存
續スルノデアリマシテ、民間業者ノ自
由ナ配給ハ認めナイ考デアリマス、電
力利用ニ付キマシテ御質問ガゴザイマ
シタ、石炭不足ノ際電力ノ活用ハ極メ
テ重要デ、之ニ付テハ差當リ、電力普
及ノ爲周波數ヲ統一シ、又鐵道電化ニ
付テ、普通ノ電化ノ外ニ落電池ヲ利用

シタ電化ヲ考ヘタラ宜クハナイカ、又
電力料金ヲ引上ゲテ、是ハ他ノ物價ニ
比シテ現在低廉ト思フノデ、之ヲ引上
ゲテ財源トスルト共ニ、施設ヲ計畫ス
ル等、ソレ等ノ計畫ノヤツテ然ルベキ
コトデヤナイカ、ソレニ對スル政
府ノ意見ヲ聽カレマシタ、商工
大臣、運輸大臣、大藏大臣カラソレゾ
レ答辯ガゴザイマシテ、周波數ノ統一
ハ此ノ機會ニ實行シタイと思フ、故ニ
極メテ最近ノ機會ニ專門委員會ヲ設置
シテ、早急ニ實行ニ移シタイ考デア
ル、鐵道電化ニ付テハ、昭和二十一年
度カラ昭和二十五年デ互ツテ、二期
ノ計畫デ鐵道ノ三割ヲ電化シ、之モ依
ツテ石炭ハ半分ヲ節約シ得ベシト考
ヘテ居ル、又蓄電池利用ノ電化ハ、海軍
ノ潛艇ニ使ヒマシタ蓄電池ノ優良ナ
物ノ利用致シマシテ、之ヲ以テ短距離
ノ輸送ニ大イニ利用シタイと思フテ居
ル、又從來鐵道電化ニ對シテ配當補助
シテ居ツタケレドモ、是ハ一種ノ價格
差補助金デアアル、今回之ヲ廢止シテ消
費者價格ト上ゲヨウト考ヘテ居ル、而
シテ質問者ハ消費者等ノ事情ヲ考ヘツ
テ更ニ料金ノ引上ヲスルコトヲ要求サ
レテ居ルガ、之ニ付テハ商工省ト十分
協議シタイト云フ運輸大臣ノ御答辯デ
アリマシタ、次ニ米穀政策ニ付テ御
質問デゴザイマス、政府當局ノ努力ニ
拘ラズ、米ノ供出ハ種々ノ事情ニ依
テ困難ナルト思フ、ソレ故ニ統制ヲ
緩和シテ、市以上ハ配給統制トシ、町
村ハ自主統制ニ依リテ農業者等ニ委
テハドウデアルカ、農林大臣ノ御答ハ
本年ハ今迄ノ供出制度ニ依ツテ行クヨ
リ外ハナイ、即ち綜合供出制度ニ依リ
マシテ、農家ノ必要品、肥料トカ、農

機具トカ、酒トカ云フモノ「リン
ク」セシメテ、供出促進ニ努力ヲシテ
居ルノデアリマス、今後ノ統制ノ方向
トシテハ、主要都市ヲ確保シテ、他ヲ
解放スルノモ一案デアアル、併シ今後食
糧ノ減少スル場合ニ限ラズ、世界的ニ
餘ルコトガアツテ、低廉ナル食糧品ガ
日本ニ入ルコトニナレバ、生産費ノ高
イ日本ノ農業ハ成立タナイ處ガアル、
從ツテ食糧全體ヲ通ズル管理ハ政府ノ
手ニ把握シテ、内地食糧ト海外食糧品
トヲ併セテ配給スルコトヲ考ヘナケレ
バナラヌモノト思フ、主要食糧ノ管理
統制ハ今後モ繼續シテ、又供出ノ方法
ニ付キマシテハ改メナケレバナライ
カト思フガ、此ノ點十分考ヘタイと思
フ、食糧問題ニ對スル極久の對策ハ科
學ノ應用ニアル、農事試驗場ノ擴張等
ニ對スル方針ハ如何デアルカ、農林大
臣ノ御答ハ、試驗場ノ成績ハ相當デア
ルケレドモ、其ノ普及ガ十分デナイ、
從ツテ増産ニ關シ合ハナイ、ソレ故ニ
今回全國ニ相當數ノ試驗場所在地ニ試
驗場ヲ設ケテ、特別ノ指導ヲ徹底サセ
ヨウト思フテ居ルノデアリマス、農林
省ノ技術官ニ對シテ固陋デアルトカ、
或ハ排他的デアルトカ云フ非難ガアル
ノ鑑ミマシテ、民間ノ經驗ヲ採入レ
テ、之ニ農林省ノ技術モ加ヘテ今後實
際ニ指導スル考デアリマス、又品種交
換會其ノ他品評會モ大イニ之ニ附隨シ
テ行フ積リデアアル、主要食糧ノ配給ヲ
二合三勺ニ復歸シタラ宜クハナイ
カ、又生鮮食料ハ統制廢止ノ爲出廻リ
ガ好クナツタケレドモ値段段ガ高イ、又
水產物ノ増産ニ力ヲ入レタラ如何デア
ルカ、是等ノ質問ニ對シテ農林大臣
ハ、米ノ配給量ハ聯合國司令部ノ輸入

可ガアツタケレドモ、マダ輸入量ガ
少シテ居リ、輸入不足ノ見込アリ付ケ
國民生活ノ最低限度ノ二合ヨリ三合
上ノラレル考デアル、ソレ迄ハ年末ニ
至リテ主要食糧、雜糧等若干ノ特配ヲス
ル考デアル、生鮮食料品ハ輸入行ク
ハ、協定價格ヲ行カニツテ途ガアル
ガ、輸入方法ハ過渡的經過カラ言ツテ
之ニ依リ難イ事情ガアルノデ、協定價
格ニ依ラムガ爲ニ標準價格ヲ出シタ次
ニ、輸入物ニ付テハ、第一ニ、
船舶ハ戰時中三分ノ二ヲ失ヒ、戰後陸
軍ノ小型船舶ヲ轉用シテ漁船ニ間ニ合
ヘシテ居ル次第デアル、漁船ノ新造ハ
船舶所ノ機能ガ止メラレテ頓挫シタ
ガ、最近修繕ガ進メ不足ガ緩和シテ
來テ居リマス、漁網モ其ノ生産ガ回復
シテ來テ居リマス、又油モ進駐軍カラ
分ケテ賣ツタノデ、漁獲ヲ今後増シテ
食糧ノ缺乏ヲ補ヒタイ考デアル、次ニ
食糧輸入ノ見返リ物資ハ如何ナルモ
ノニ力ヲ入レルノカ、貿易廳ハ業務
廳デナイノ單ニ命令官廳デアルカラ
ラ、商工省內ノ商務局ガアレバ之ヲ充
實スルコトヲ以テ足リルノデハナイ
カ、之ニ對シテ商工大臣ノ答辯ハ、輸
入ノ見返リ物資ハ本年內ニ四億七千八
百萬圓、明年度ニ二十五億二千二百
萬圓、合計三十億萬圓デアル、而
シテ輸出品ノ中ノ主ナルモノハ纖維製
品、化學製品、機械金屬、農水產物、
雜貨、美術工藝品デアル、其ノ
各ノ金額ニ付テ大體豫定ハ付イテ居
ル、而シテ是ガモノヲ物ラドシテモ輸
出シナケレバ米等必要モノノ輸入ガ
出來ナイノデアル、貿易廳ニ付キマシ
テハ、聯合國司令部管理ノ下ニ特殊ノ
貿易ガ許サレ輸入ヲ確保シ、見返り物

資ノ爲輸出輸入ヲ強行ニ振興スル爲ニ、
十月九日聯合國司令部ノ覺書ニ依ツテ
輸入物資ノ一元の責任官廳ノ設置ヲス
ベシト云フ命令ガアツタノデ、責任官
廳トシテ此ノ貿易廳ヲ作ツタノデア
ル、當面ノ處、貿易ノ方式ハ特殊貿易デ
アル、爲替ガナク輸出輸入物資ノ授受
ヲ爲スニ過ギナイノデアル、資金ハ五
千萬圓ヲ之ニ充テル積リデアルト云フ
御答辯、次ニ榮養研究及ビ衛生上ノ指
導ニ付テ、又厚生科學研究所ノ充實、
農林省ト厚生省トノ榮養研究機關ヲ統
合一元化ノ問題、生鮮食料品市場ニ對ス
ル指導等ニ付テ御質問ガアリマシタ、
厚生大臣ノ御答ハ、國民ノ榮養ハ十分
デナイノデ粉食ニ限ミラザシテ居ル、榮
養方面ノ機關トシテ各地ニ榮養士ヲ置テ
之ノ指導ニ當ラシテ居ル、研究機關ノ
不十分ハ痛感シテ居ルガ、財政上ノ制
約モアリ、殊ニ組閣以來財政緊縮ノ方
針ヲ執ツテ居ルノデ、今日ノ處已ムヲ
得ナイ、農林省ト厚生省トノ研究機關
ノ重複スルモノガアレバ是ハ整理シタ
タイ、生鮮食料品ハ公定價格ヲ廢シタ
ル後出廻リガ好クナツタ、併シ消費者
ノ側カラ言ツテ、消費者ノ實力ノ増カ
ラ生鮮食料品ノ普遍シナイコトガアレ
バ、社會の榮養上重大問題デアルト思
フ、「カード」階級ノヤウナ人ニハ廣ク
ソレ等ノモノヲ手ニ入レルヤウニシタ
イト思フ、本日ノ閣議デ困難者ニ對ス
ル救済方法ガ相當範圍ニ互ルヤウニ
決定サレタ次第デアルト云フ御答辯デ
アリマシタ、又一般農地ノ高度活用ニ
付テ電力、或ハ科學力等ノ利用、又品
種ノ選擇、農具、機械ノ應用等科學的
ノ經營ヲシテ、收穫増加ヲ圖ツテハ如

何デアラウカト云フ質疑ニ對シマシ
テ、農林大臣ハ、目前ノ一時的施策ノミ
デナク、根本の方策ヲ要スルモノト思
フ、農地ノ高度利用ニ付テハ十分考ヘ
タイ、農村ハ多クノ人口ヲ吸收シ、又
農村ノ電化ニ付テハ大イニマダ餘地ガ
アルト思フ、唯増産ノ基本ヲ成スノハ
矢張り肥料デアル、從ツテ肥料ノ増産
ニ力ヲ入レタイト思フテ居ルノデア
ル、戰災地ノ農地化ニ付キマシテ御質
疑ガアリマシタ、全國一億五千萬坪ノ
戰災地ヲ墾闢化シテ食糧問題ノ緩
和ヲ圖クヲラドウカ、農林大臣ノ御答
ハ、戰災地利用ヲヤリタイト思フガ、
併シ之ニハ三ツノ困難ガアル、第一ハ
燒跡整理ノ問題、第二ハ土地所有者ノ
了解ヲ要スルコト云フコト、第三ハ種子
ガナイ、是等ノ困難ガアルノデアル
ガ、差當リノ方策トシテ來年ハ全國都
市ニ南畝ヲ播イテ實ヲ積リデ居ル、近
ク六大都市ノ關係者ヲ會合シテ計畫ヲ
樹テルコトニナツテ居リマス、尙御質
疑ハ交教問題、社會問題、行政整理問
題等ニ付テ居リマスガ、大分時間ガ
長クナリマシタノデ、ソレハノ問題
ニ對シテ極ク一、二ヲ御報告申上ゲル
コトニ致シタイト思ヒマス、先ツ國民教
育ノ刷新ニ付テ御質問デゴザイマシ
テ、終戦後ノ社會ノ世相ノ特異「ラジ
オ」、新聞等ノ報道ヲ見テモ何ヤラ國
家崩壊ノ過程ニアルヤウナ感ガスル、
過去ニ於ケル國史教育ノ教授法、科學
教育ノ不十分、社會教育ノ不完全ニ因
ルモノト思ハレル、喪ハレタル國民ノ
道義心ヲ如何ニシテ品揚スルカ、國民
教育ノ刷新ニ付テ伺ヒタイト云フ御質
疑デゴザイマス、文部大臣カラ師範學
校長ヲ視學官ヲ會同シテ協議シタノデ

アルガ、國史教育モ前ハ或意圖ヲ以テ
誤ツタ教育ヲシタ、史實ニ基クモノト
傳承ニ依ルモノト區別シテ教ヘテモ
日本人ニハ動搖ガナイト思フ、科學的
基礎ニ基イテ教育ヲスベキモノト思
フ、教科書モ全面的ニ之ヲ改正シテ、
社會教育ニ付テモ大イニ刷新ヲシタイ
ト思フ、戰時中教育ハ特殊ナリ、其
ノ結果、今後不完全ナル教育ヲ受ケタ
者ガ社會ノ上層ニ立ツコトガアルト思
フ、國家ノ爲ニ誠ニ危險ガ大キイ、教
育ノヤリ直シヲ要スルト思フ、或ハ國
民性ニハ事大性ヤ育德性ガアル、是ハ
立憲政治ノ精華トナルノデ、教育上
カラ此ノ點ニ付テ考ヘナケレバナラヌ
モノト思フト云フ御質問ニ對シテ文部
大臣ノ御答辯ハ、戰時中ノ教育ニ付テ
ハネコソ再教育ヲ要スルト思フガ、
實行ハ困難デアル、公民教育ヲ刷新
シ、榮ニ青年層ニ公民生活ヲ教フベキ
モノト思フ、又學校教員ノ頭モ切換ヘ
サセル必要ガアル、國民學校ノ時カ
ラ正シイ判斷力ヲ養ハシムベキ
デアツテ、何ガ正シイカト云フ
批判力ヲ養ハナケレバナラス、教科書
ニ付テハ省內ニ教科書局ヲ置イテ速カ
ニ全面的ニ教科書ヲ改メタイト思フテ
居ル、教育問題ニ付テハ尙御質問ガゴ
ザイマシテ、教員ノ生活ノ安定ニ付テ
ハ惠メナイデ誠ニ氣ノ毒ナ狀況ニア
ル、而シテ今後國家ノ前途ハ一ニ教育
ニ俟ツノ外ハナイガ、教育者ノ待遇ヲ
改善シテ其ノ生活ヲ安定セシムルコト
ガ必要ト思フ、之ニ對スル御答辯ハ、
今後教育ノ趨勢ニ鑑ミテ是ハ改善ヲ要
スルモノト思フ、併シ何分人數ガ多イ
ノデ、財政上ノ關係モアリ、財政當局

ト折衝シテ之ガ改善ニ付テ努力ヲシヨ
ウト思フ、大藏大臣カラノ御答辯モ
アリマシテ、國民教育ニ力ヲ入レルベ
キ大切ナ今日ノ時ニ當ツテ、ソレ等ノ
人々ノ生活ニ脅威ヲ與ヘルト云フコト
ハ宜シクナイコトデ、出來ルダケ盡力
シヨウト云フコトデアリマシタ、次ニ
學務研究機關機關ノ振興ニ付テ御質
問ガアリマシテ、專門學校、大學等ノ
研究費ガ少イ、又帝國學士院ニ對シテ
ノ豫算モ少イ、文化日本建設ノ爲ニ是
等ニ對シテ深ク考ヘナケレバナラヌ
ガ、當局ノ御考ハドウデアルカ、文部
大臣ノ御答ハ、專門學校以上ノ研究費
ノ不足ニ付テハ増額ニ努力ヲシヨウ、
又帝國學士院ノ經費ハ少イガ、學士
院ノ重要ナルコトニ鑑ミテ是等ノ増額
ニ付テモ考慮シヨウト云フ御答辯デ
アリマシタ、次ニ恩給問題ニ付テ御
質疑ガザイマシタ、恩給停止ハ重大
ナル社會問題デ、慎重ニ取扱ハナケレ
バナラスガ、政府ノ對策ハ如何デア
ルカ、厚生大臣ノ御答辯ハ、聯合軍司令
部カラ軍人恩給、扶助料給與ノ停止ヲ
命ゼラレタノハ大衝擊デ、總理大臣モ
最高司令官ニ面談シタガ、遂ニソレヲ
變更シテ實フコトガ出來ナカツタノハ
誠ニ残念デアアル、恩給權者ニ對シテハ
生活安定ノ爲ノ保障ヲ考ヘル、目下ノ
處、權利者ニ對シテハ厚生年金保險類
似ノ方法ニ依ツテ年々或程度ノ支給ヲ
シヨウト云フコトデアリマシタ、
研究ヲシテ居ルコト云フコトデアリマシ
タ、次ニ失業救済問題デアリマシテ、
復員在外同胞ノ歸還、離職、行政整理等
ニ因ル大盤ノ失業者ハ前途ニ横タル
最大深刻ナル問題デアルノニ鑑ミテ、
農林、商工等ノ各省ノ所管事務ニ付テ

是等ノ救済ヲ適當ニ考ヘテ裁キタイ、
政府ノ御考ハドウデアアルカト云フ御質
疑アリマシテ、之ニ對シテ農林大臣
カ、農村ハ今日既ニ人口飽和狀態デ
アル、零細農ガ多イ、此ノ上農村ヘ人
口ヲ吸收スルコトハ甚ダムツカシイ、
農業ガ高價ニ集約化シ、小面積農業
經營ガ出來ルコトニナレバ、ソコニ若
干ノ餘裕ハ出ルデアラウガ、現在ハ困
難デアアル、唯開墾ノ面ニ於テ百五十
萬畝歩ヲ開墾シテ、新タニ百萬戸ヲ入
植セシメヨウト思フテ居ル、又干拓事
業ニ付テモ、收容力ガ相當アルト思フ、
之ニモ百萬戸ハ入ラレラレドラウト思
フ、此ノ開墾、干拓ノ終ル迄ノ三年間
ハ努力ガ一時ニ必要デアアル、水灌方面
ハ深山ノ人散デハナイガ是亦人ヲ吸收
出來ルト思フ、又土地ノ改良トカ、森
林復興ノ爲メ植林、其ノ方面ニモ相當
努力ガ必要サレモト思フ、商工
省ノ方面ニ於テ商工大臣カラノ御答
アリマス、企業許可令ハ全面的ニ
撤廢ガ出來難ク、何等カノ措置ヲ執
上デナイト撤廢ハ出來ナイ、併シ
轉廢業者ノ復興ハ、退出位ノ程度ノ
輕キ取扱ニ現在止メテ居ルデア
ル、尙失業問題ノ面カラ、民需生産
ノ爲メ企業ニ付テ、社會政策的金融
政策アリヤト云フ御質問ガアリマシ
タガ、之ニ對シテ大藏大臣ハ、終戰
後大企業ニ付、戰時金融庫ヲ戰後金
庫金庫ト改メテ、之ヲ利用シタイ思
フ、過般聯合軍總司令部カラ閉鎖
ヲ命ゼラレタ、終戰後各金融機關ニ對
シテ、民需生産ニ對シテ金融方ヲ示連
シタ、現在比較的活動シテ居ルハ農
林中央金庫デアアルガ、是ハ餘リ目立
ナイ、又庶民金庫ニハ、今少シ活動

セシメタイト思フテ居ル、次ニ在外同
胞ノ救出及ビ家族ノ救済ニ付テノ御質
疑デゴザイマシテ、在外同胞ノ今日到
ル處デ非常ナ暴虐ナル取扱ヲ受ケテ居
ル狀況ヲ述ベラレマシテ、之ガ救出ノ
爲メ、聯合軍ニ對シテ正義ニ懸ヘテ、其
ノ救出ノ目的ヲ果シタラ宜イデハナイ
カ、殊ニ滿洲、支那、朝鮮ニ在ル同胞
ハ其ノ數ガ甚ダ多ク、資金ガ制限セラ
レテ、内面ニ在リシテ居ル家族ノ生活
ニモ困ツテ居ル次第デアアル、現ニ之ガ
具體的救済方法ヲ政府トシテハ斷テナ
ケレバナラヌト思フガ、如何ニ御考ニ
ナツテ居ルカト云フ質問ニ對シテ、總
理大臣カラ、同胞ノ救出、救済ニ付テ
ハ深ク心ヲ痛メテ居ル、極力聯合軍司
令部ニ連絡シテ、之ガ救出方ヲ努力シ
テ居ルガ、實行上種々ノ事情ガアツテ
急速ニ進行ガ出來ナイデアアル、ソレ
等ノ事情ニ付テハ何卒謝テ察スルヒタ
イト云フ總理カラノ懇切ナル御答辯デ
ゴザイマシタ、次ニ行政整理ハ、人數
ノ削減ニ止メズ、根本ノ機構改革ヲ斷
行シテ實ヒタイ、又各方面ニ於ケル所
謂閣ヲ打破シテ實ヒタイト云フ御質問
ニ對シテ、政府ハ思ヒ切ツタ行政整理
ヲ斷行シヨウトシテ居ル、サウシテ近
クソレハ發表スル積リダ、目下鋭意研究
ヲ進メテ居ル、特殊ノ行政ニ付テハ、之
ヲ一機構ノ下ニ統一シテ簡素化シヨウ
トシテ居ル、例ヘバ戰災復興院ノ如キ、
或ハ石炭廳ノ如キ、ソレデアアル、政府
ノ各方面ニ關ガアリ、是ハ自分モ痛感
シテ居ル點デアツテ、政府ハ力ヲ及ブ
限リ閣ノ發生、發達ヲ防止セムト思
フ、併シ是ハ國民全體ノ協力ヲ得テ除
去ニ努メタイト思フデアアル、又河川

改修ニ付テ、上流ニ力ヲ入レナケレバ
ナラヌ、然レニ戰爭以來、森林ノ伐採、
鑛山ノ濫掘等ガアツテ上流ガ大ニ荒
レテ居ル、今後統一機關ヲ設ケ、例ヘ
バ水政省ノ如キモノヲ設ケテ、是等ノ
點ニ付テ十分災害防止ニ努力シテハ如
何デアアルカト云フ御質問ニ對シテ、總
理ハ、災害復興ニ付テ其ノ本ヲ治メル
ト云フコトハ誠ニ同感デアアル、各官廳
間ノ災害復興ニ付テ、同所所ヲ二重ニ
手ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトハ
誠ニ遺憾ナコトデ、綜合的ニヤリタ
イ、尙ソレヲ水政省ノ如キ一省トスル
カドウカト云フコトハ明白シ難イガ、
御趣旨ニ副フヤウニ改メタイ、ソレカ
ラ戰時法違反ノ事例ガ、最近聯合軍ノ
發表等カラ見テ、非常ニ多イ、是等ノ
戰時法規ノ違反者ハ、陸海軍ノ軍法會
議デ嚴重ニ處置スベキハ勿論デアアル
ガ、我ガ國民性ハ斯クノ如キ殘虐性
ナイ筈ト思フテ居ル、現ニ過去ノ日
清、日露或ハ日獨戰爭、歐洲戰爭等ノ
場合ニ於テ、戰時法規ヲ守ル點ニ於
テ、日本人ハ世界ニ誇ルベキモノガア
ル、誠ニ其ノ點遺憾デアアル、又終戰
後、在外邦人ガ各方面デ殘虐ナル取扱
ヲ受ケテ居ルガ、今日我ガ國ハ戰敗國
トシテ執レノ國ヘモ、ヘルコトガ出來
ナイ、實ニ戰敗國ノ悲劇ヲ感ゼザルヲ
得ナイ、ソコデ自分ノ希望スル所ハ、
此ノ事實ヲ調査シテ將來ソレ等ノ調査
ヲ活用スル用意ヲ御願ヒシタイモノデ
アル、ソレ等ノ御質問ニ對シマシテ、
總理ノ答辯ハ、誠ニ今回ノ戰爭ニ於テ
我ガ軍ノ殘虐行為ヲ犯シタト云フ事例
ハ誠ニ残念ナコトデアアルガ、是ハ過去
ノ戰爭ニ於テ左様ナコトガナク、此ノ
際左様ナコトガアツタト云フコトハ、

從來ノ戰爭ハ列國ノ同情ヲ得テ居ツタ
ガ、此ノ度ノ戰爭ハサウデナイ、又戰
爭ガ非常ニ長クナツタト云フコトニ依
ツテ軍ニ大キナル制裁モ與ヘタト思
フ、併シ此ノ汚レタル事實ハ歴史カラ
抹殺シタイモノデアアル、大東亞戰爭調
査會ニ於テ、及ビ與リソレ等ノ事實ヲ究
明シ、將來ノ戒メトシタイト思フ、マ
ダ質疑應答ノ期間ハ殘ツテ居リマス
ケレドモ、餘リ長クナリマスカラ、
此ノ邊デ省略致シマシテ、御報告ヲ
申上ゲマセヌ御質問ニ付テモ、幾多重
要ナモノガ殘ツテ居ルデアアリマス
ガ、ドウカソレ等ハ速記員ニ於テ御承
知ヲ願ヒタイト思ヒマス、以上質疑應
答ガゴザイマシテ、討論ノ際、一委員
カラ賛成ノ御意見ガ出マシタ、ソレヲ
チヨツト御紹介申上ゲマス、茲ニ提出
サレテ居ル豫案ハ國民榮譽上缺クベ
カラザル點ノ不足ヲ補ヒ、又粉食ノ生
產ニ依リ當面シテ居ル食糧事情ヲ幾分
緩和シ、又農地制度ノ根本的改正ニ依
ツテ健全ナル農家ヲ育成シ、食糧事情
ヲ緩和シヨウト云フ政策ガ感ラレテ居
ル、從ツテ之ニ賛成スル、併シナガラ
此ノ追加預算ダケデハ焦眉ノ急ニ應ズ
ルコトガ出來ナイ、仍テ政府ハ我ガ國
ノ當面セル食糧難ノ克服、又此ノ嚴冬
ヲ控ヘテノ難業者ノ住宅ノ建築、及ビ
刻々増大深刻化セル失業大衆救済、是
等ニ對シテ執レモ迅速果敢ナル對策ヲ
實施シテ實ヒタイ、更ニ漸次増殖汎濫
シ行ク通貨ニ依リ生ズル惡性「インフ
レーション」ニ對應シテ、通貨政策ノ
勘案ニ依リ、經濟財政ノ破綻ヲ未然ニ
防止スルヤウニシテ實ハナケレバナラ
ヌ、又現下ノ憂フベキ國內治安狀態ニ
付テハ、各地トモ無警察ノ狀態ト云フ

ベキモノデアツテ、速カニ警察力ヲ再
建、増強シテ、國民生活ノ不安ヲ除イ
テ實ヒタイ、更ニ勤勞大衆ノ勤勞意欲
ノ不振、其ノ基ク所國民道義ノ頹廢ニ
存スルモノト思フガ、社會教育ノ再建
ニ依ツテ之ヲ匡正スル外ハナイト思
フ、又石炭増産ノ出來ル、出來ナイ
ハ、再建日本ノ産業復興ト、國民日常
生活トニ密接ナル關係ガアルノデ、之
ガ増産ニ付テハ一段ノ努力ヲシテ實ハ
ナケレバナラヌ、ソレヲノ事ヲ實施ス
ルニ當ツテ聯合軍司令部ト絶エザル連
絡ヲ保持シテ、其ノ圓滑ナル運営ヲ期
シテ實ヒタイト思フ、是等ノ希望ヲ附
シテ、自分ハ本案ニ賛成スル者デア
ルト云フ賛成意見ノ御陳述ガゴザイマシ
タ、次ニ一委員ハ又賛成ノ意ヲ表サレ
マシタ、ソレニ附隨シテ希望ヲ言ハレ
マシタ、今ヤ此ノ度ノ豫算委員會ニ於
ケル質疑應答ニ依リマシテモ、戰爭ノ
災害ノ如何ニモ大ナルコトヲ痛感スル
故ニ、其ノ敗戰ノ原因ヲ政治上ヨリ將
又技術上ヨリ能ク調査シテ、其ノ結果
ヲ公表シ、天下後世ノ戒メトスル資料
ト致シタイ、豫算委員會ニ於ケル審議
ノ經過ヲ見マシテモ、今ヤ國家ノ前途
ニハ難關ガ百出シテ居ル、併シ自分ハ
前途ヲ必ズシモ樂觀ハシナイ、ソレ
ニ付テハ政治方面ニ於テモ外交方面ニ
於テモ、或ハ穩健政治、或ハ穩健外交
ト云フモノガナケレバ、是ガ打開ハ出
來ナイト思フ、而シテ穩健政治ハドウ
云フコトカト云ヘバ、各機關共其ノ分
ヲ守ルト云フコトデアアル、又外交ニ付
テハ國際信義ヲ保持ガナケレバナラ
ヌ、國民ハ政府ヲ援ケテ、是等ノコト
ヲ行ハシメナケレバナラヌモノト思

フ、斯クシテ東亞ノ一角ニ樂土ヲ建設シテ、世界平和ニ貢獻スルコトガ出來ルヲ思フ、此ノ希望ヲ附シテ本豫算ニ贊成スル者デアルト云フ賛成意見ノ御陳述デゴザイマシタ、以上賛成ノ御意見ハ二人ノ委員カラノモノ御陳述デゴザイマシタ、採決ニ移リ、満場一致豫算三案ハ可決サレタノデゴザイマス、以上ヲ以テ御報告ヲ終リマス、長イ間御清聴ヲ願ヒマシテ有難ウゴザイマス

○議長(公卿徳川慶親王) 質疑ノ通告ガゴザイマス、御居君

〔關屋貞三郎君發言〕

○關屋貞三郎君 只今豫算各案ヲ審議スルニ當リマシテ、極メテ簡單ニ質疑ヲ試ミ、意見ヲ申上ゲマシテ、政府、殊ニ總理大臣、司法大臣ノ御答辯ヲ御願ヒ致シタイト思フノデアリマス、尤モ私ガ此ノ質疑ノ通告ヲ致シマシタ時ニ考ヘテ居リマシタコトガ、幸ニ政府ノ御盡力ニ依リマシテ一部分解決シマシタカラ、其ノ方面ニ付キマシタハ私ノ質問ハ其ノ時ニ考ヘタコト多少違フタ形ヲ取リマシテ、質問モ稍、簡單ニナツタ譯デゴザイマス、只今上程サレマシタ豫算ノ中ニハ、帝國議會ノ開會ニ關スル經費モアリマスルガ既ニ此ノ本議會ニ提出サレマシタ各案ト共ニ、是ハ「ボツダム」宣言ノ所國民主的、平和的政治ノ復活強化ニ必要ナルモノデアリマス、是等ノ施設ハ「ボツダム」宣言ヲ俟ツ迄モナク、既ニ實行セラレタ然レベキモノデアリマシタガ、終戦迄ハ寧ロ反對ノ方向ニ進ミツ、アツタノデアリマス、今ヤ「ボツダム」宣言ヲ受諾致シ、終戦ノ御附屬ヲ拜シ、萬世ノ爲ニ太平ヲ開カセカフトノ大御心ノ下ニ、我々共新日本

建設ニ當ラナケレバナラヌノデアリマシテ、臨時議會ヲ開會セラレタノモ其ノ御趣旨デアラウト思フノデアリマス、民主的、平和的政治ヲ實現スル爲ニハ、私ハ先ヅ帝國議會ヲ強化シテ其ノ地位ヲ向上スルコトガ第一ノ要諦デアルト信ジテ居ルモノデアリマス、取敢ズ此ノ衆議院議員選舉法改正ノ如キモ重要ナルモノノ一ツデ、追ツテ貴族院モ劃期的ノ改正ガ行ハレルト云フコトヲ信ジテ居ルノデアリマス、帝國議會ヲ強化向上スルニ付キマシテハ、議員ヲシテ能ク民意ヲ反映代表セシメルコトハ申上迄モアリマセヌガ、御互ヒ議員一人々々ガ常ニ修業ニ努メテ、議員タルノ責務ヲ盡スニ於テ遺憾ナキヲ期スルコトガ根本デアアル、之ニ依リマシテ帝國議會ハ内外一般ノ信賴ヲ博スルヤウニナルト思ヒマスルガ、私ハ帝國議會ノ地位ヲ向上強化スル爲ニハ兩院議長ノ地位ヲ高メルト云フコトガ必要デアルト確信シテ居タモノデアリマス、從ヒマシテ副議長、議員モ自然同様ニナル譯デアリマスガ、サウ云フヤウナ考ヘ從來持ツテ居ツタ者デアリマス、又先般本議場ニ於テ同僚出口君ヨリモ御意見ガアツタヤウデアリマスルガ、兩院事務局ヲ強化スルト云フコトモ考慮サレナケレバナラスノデアリマシテ、我々ガ議員トシテ單ニ政府ノ説明ノミニ依存シナイデ、議員自體ガ自ら調査研究ヲ遂ゲ、國際的ニモ國內的ニモ各種ノ事情ニ精通シ、議會獨自ノ意見ヲ以チマシテ、更ニ政府ノ説明ヲ十分ニ承リ、適當ニ判斷ヲ下サナケレバナラスモノデアリマス、從ニ眞從ヲ事ト致シマスレバ、取リ返シノ付カヌ失敗ニ陥ルコトハ御同様確信シタ

通リデアリマス、如何ニ此ノ議會ガ所謂白星ノ殿堂デ立派ニ建築ガ出來マシテモ、其ノ運用内容ガ伴ハナケレバ意味ヲ成サヌト思フノデアリマス、ドウシテモ兩院事務局ヲ強化ガ、矢張り帝國議會ヲ強化スルト云フ意味ニ於テ最も必要ナルデアリマシテ、或場合ニハ兩院ノ書記官長ノ地位、若シハ任用ト云フヤウナコトモ大イニ考慮サレナケレバナラスモノト思フノデアリマス、貴族院ニ於ケル衆議院議員選舉法改正ノ特別委員會ノ席上デ、私ハ兩院議長、從ツテ副議長、或ハ議員モ伴ヒマスルガ、兎ニ角此ノ兩院議長ノ地位ノ向上ニ付キマシテ内務大臣ニ質問致シマシタ處ガ、至極同感デ、何トナシニ其ノ當時カラ實現ガ近イノデアルト云フコトヲ感ジマシタガ、本日新聞紙上デ此ノ問題ニ付キマシテハ既ニ樞密院ノ御諮詢ヲ済ミ地位向上ガ既ニ公布セラレタコトヲ知リマシテ、頗ル欣快ニ堪エナイノデアリマシテ、現政府ニ對シ深ク敬意ヲ表スル者デアリマス、併シナガラ兩院議長ノ地位ノ向上ト共ニ、私ハ寧ロ同時ニト言ヒタイノデアリマスガ、實現シナケレバナラスモノハ大審院長、從ツテ檢察總長モ伴ツテ參事ト思ヒマスガ、大審院長ノ地位ノ向上デアリマス、今日此ノ問題ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ承リタイト思フノデアリマス、是ガ私ノ今日ノ質問ノ目的デアリマス、質問者ハ大正十年ニ宮内省ニ入りマシテ、當時兩院議長ト大審院長ノ地位ガ國務大臣ニ比シテ非常ニ低イノニ驚イタノデアリマス、私ガ直接關係致シマシタコトヲ此ノ席デ申上グルト云フコトハ、實ハ如何デアアルカト思ツテ差控ヘヨウト思ツタノ

デアリマス、此ノ問題ニ付政府ニ於テモ、矢張り相當關心ヲ持ツテ居ツタノデアリマシテ、唯如何ニモ其ノ進行ガ遅延トシテ進マナカッタノデアリマスノデ、其ノ経緯ヲ申上グルコトモ將又帝國議會ヲ強化スルト云フコト、若シハ運籌ヲ十分ニ致シテ行ク上ニ於テモ、亦今日私ガ質問セムスル大審院長ノ地位向上ニ關シマシテモ、何レハハ政府ノ御盡力ヲ願ハナケレバナラスモノデアリマスカラ、少シ其ノ経緯ヲ申上ゲテ置イタ方ガ、或ハ御參考ニナルカト思ヒマシテ、暫ク清聴ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、稍、古イ事ヲ申上ゲテ恐レ入リマスガ、原内閣、濱口内閣、ソレカラ齋藤内閣ノ當時デアリマスルガ、當時ノ内閣書記官長デアツタ、横田君、川崎君、柴田君等ガ屢、宮内省ニ來訪セラレマシテ、色々政府ノ希望スル所ヲ御話ガアリ、又我々共ノ考ヲ申述マシテ懇談致シタコトガアリマス、併シナガラ其ノ當時ハ總理大臣ヨリハ公式ニ宮内省ニ對シテ何ニモ申出ガナクテ、從ツテ宮内大臣ト致シマシテハ、此ノ事ニ付テ奏請シテ樞密院ニ御諮詢ニナル迄ニハ至ラカッタノデアリマス、是ハ政府ノ熱意モ足ラズ、又一ツニハ私共ガ甚ダ微力デアツタ爲デアリマシテ、今更ニ汗顔ニ堪ヘナイノデアリマス、宮中席次ハ皇室儀制令ノ中ニアルノデアツテ、樞密院ノ決定ヲ要スルノデアリマス、當時政府ハ樞密院ニ難色ガアルト云フ理由デ、當ニ躊躇セラレタヤウデアリマス、私ハドウ云フ點ガ難色デアアルカト云フコトヲ十分理解ハ出來ナカッタノデアリマスガ、兎ニ角政府ハ頻ニ樞密院ヲ憚ツテ居ツ

タノデアリマス、今日ハ時勢モ一變致シマシテ、民主的、平和的政治ノ確立ヲ必要トスル時期デアリマスルシ、既ニ兩院議長、副議長、議長等ニ付テ席次ノ向上ヲ圖ラレタノデアリマスルカラ、我ガ最も尊敬スル明敏ナル樞密院ノ諸公ニハ、必ズ大審院長ノ地位ニ付テモ、私ハ御了解ガ得ラレルト云フコトヲ確信シ、且之ヲ希望スルノデアリマス、尙少シ諒イヤウデアリマスルガ、私ハ前年貴族院ノ豫算總會ニ於テ、平沼内閣ノ當時モ此ノ事ヲ質問致シマシテ、政府モ十分考慮スルトノ答辯ヲ得マシタガ、實ハ今日迄實現シナカッタノデアリマス、私ハ甚ダ微力ナ者デアリマスルコトハ御承知ノ通りデアリマスルガ、唯此ノ問題ハ立憲政治ノ根本義デアルト考ヘマシタカラ、色々ナ機會ニ於テ常路ノ方ニハ申上ゲタノデアリマス、又大審院長ノ席次ニ付テハ殆ド歷代ノ司法大臣ノ所ニ伺ヒマシテ、此ノ實現ヲ御願ヒ致シタノデアリマス、兩院議長ノ問題ハ幸ニ解決致シマシタガ、大審院長、次デハ檢察總長ノ問題モ含ンデ居リマスルガ、之ニ付キマシテハ、未ダ政府ノ御意圖ヲ十分ニ承ルコトガ出來ナイノデ、今日貴重ナ時間ヲ御願ヒ致シテ御質問ヲ致スヤウナ次第デアリマス、私カラ許シク申上グル迄モナイノデアリマスルガ、一國ノ政治ガウマク行クカ行カヌカト云フコト、殊ニ是ガ立憲的ニ、即チ民主的ニ、平和的ニ動イテ參リマスノニハ、行政、立法、司法三權ガ強化獨立シテ、而モ此ノ間ニ十分協調ガ保タレテ順調ニ進シテ行カナケレバナラヌコトハ、申上迄モナイノデアリマス、結局正義ノ確立デアリマス、正義

ノ確立デアリマス、正義ニハ國際正義ト國內正義ト云フモノガアルト思ヒマス、國政正義ニ付キマシテハ、今回ノ此ノ敗戦ニ於キマシテ聯合國ノ見方デハ、我が國ノ國際正義ノ確立シテ居ラナクツタ、或ハ國際正義ニ背イタモノガ多クツタト見テ居ルノデアリマス、又サウ云フ風ニ指摘致シテ居ルヤウデアリマス、將來大小孰レノ國家ニ致シマシテモ、此ノ國際正義ヲ嚴重ニ守ルコトデナケレバ、世界ノ平和ハ期シ得ナイト思ヒマス、我が國ニ於キマシテモ、誠心誠意將來ニテ守ツテ、苟クモ國際間ノ信用ヲ失墜スルヤウナコトノナイヤウニシナケレバナラヌト考ヘマス、又是同様に國內正義ヲ確立スルコトガ極メテ必要デアリマシテ、是ガナケレバ治安秩序ノ維持モ出來ズ、民生ノ安定モ出來ナイノデアリマス、國家ノ發展、世界平和ノ貢獻ト云フヤウナコトハ絕對ニ出來ナイノデアリマス、是ハ政府、民間全般ニ關スル事柄デアリマシテ、殊ニ司法府ガ餘程シツカリシテ戴カナイト、此ノ國內正義ハ到底維持出來ナイ、司法府ガ國民ノ畏敬ト信頼ヲ受クルコトガナケレバ駄目デアラウト思ヒマス、ソレニハ在朝在野ノ法曹ノ向上ヲ望ムコトハ申ス迄モアリマセヌガ、矢張り最高峰トモ謂フベキ大審院長ノ地位ヲ高メルト云フコトガ必要ニナツテ來ルト思フノデアリマス、勿論地位ノ向上ト共ニ、或種ノ權限ヲ與ヘル必要モアルカト思ヒマス、是ハ司法府等ニ於テモ御研究デアルコトト思ヒマシテ、私ハ實ハ餘リ十分ニ研究シテ居ラヌノデアリマス、兎ニ角大審院長ガ常ニ司法大臣ノ下風ニ立ツト云フヤウナ考ヘ方ハ甚ダ

宜シクナイ、然ルニ從來司法大臣ハ大體檢察總長カラ榮轉デアルカドウカ知リマセヌガ、轉任セラレルノデアリマシテ、何トナシ大審院長トカ判事ト云フ方ノ側ハ勢ガナイヤウナ氣ガ致スノデアリマス、大審院長ハ勿論司法府ノ中カラ御選ニナツテ結構デアリマス、萬一政府ニ其ノ人ガナケレバ、在野カラ出テモ宜イト思フノデアリマス、私ハドナタデアリマシタカ、司法大臣ニ御話シタコトモアリマス、在野ニモ立派ナ人ガ澤山居ルデヤナイカ、澤山ト申シマセヌガ、居ルデヤナイカ、サウ云フ人ヲ御選ニナツテ宜イデヤナイカト云フコトモ申シタ位デアリマス、甚ダ露骨ナ事ヲ申上ゲテドウカト存ジマスルガ、前ノ樞密院議長ノ原嘉道氏ノ如キ、若シクハ此處ニモオイデデアリマスガ、岩田君トカ根本君トカ云フヤウナ在野法曹界ニ於ケル錚々タル人ガ、大審院長ニナツテモ宜イデヤナイカト云フヤウナ事迄申シタコトモアリマス、兎ニ角人物ノ立派ナ人ガ大審院長ニナツテ、國民ガ此ノ人ニ判決ヲ受ケルナラバ安心デアルト云フ者デナケレバ、所謂國內正義ヲ保ツト云フコトハ出來ナイノデアリマス、嘗テ豚糞事件ト云フヤウナモノガアツタヤウデアリマス、又帝人事件、斯ウ云フヤウナモノハ司法府ノ信用ヲ害シタコトハ甚ダシイノデアリマス、又檢察當局ノ名譽デモナイト思ヒマス、尙彼ノ二・二六事件トカ、或ハ幾多ノ所謂事件ト云フ名前ノ付キマシタ不詳事ガ起リマシタ時ニハ、何トナシニ司法府ハ殆ド手ヲ拱イテ見テ居ラヌデヤナイカト云フ風ニモ我々ハ感ゼラレタノデアリマシテ、國內正義ノ

確立ヲ危ンダノデアリマス、況ンヤ近時戰爭後ノ犯罪モ段々續エテ參ツテ居リマス、又食糧難ニ伴フ闇ノ問題、又思想ノ混亂ト云フヤウナコトガ段々起ルノデ、實ニ寒心ニ堪ヘナイモノガアリマス、此ノ際司法府ノ強化スル意味ニ於キマシテ、大審院長、檢察總長モ相次デ起ルト思ヒマスルガ、大審院長ノ地位ヲ高メルコトガ、極メテ必要デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、米國ヤ英國ノ例等ハ政府デ決ニ御承知ノ通りデアリマセウガ、ドウカ此ノ民主的、平和的政治ノ確立ト云フコトヲ圖ツテ參ル際デアリマスルカラ、此ノ問題ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ承リタイ、殊ニ總理大臣、司法大臣ノ御答辯ヲ冀フ次第デアリマス

〔國務大臣男爵幣原重遠君答辯〕

○國務大臣(男爵幣原重遠君) 只今ノ閣下君ノ御質疑ニ御答ヘ申上ゲマス、大審院長ノ官中席次ヲ引上ゲル問題ニ付キマシテハ、實ハ政府ニ於キマシテモ、此ノ官中席次ノ問題ハ關聯スル外ノ事項ト共ニ、一應考ヘテ見タノデアリマスルガ、之ガ實行ニ付キマシテハ種々研究ヲ要スル點ガアリマシタノデ取敢ズ先ツ貴衆議院ノ正副議長並ニ議員ノ官中席次ヲ引上ゲルコトニ取計ラツタノデアリマス、尙只今閣下君ノ御意見モ承リマシタノデ、更ニ研究ヲ重ネル積リデアリマス

〔國務大臣岩田宙造君答辯〕

○國務大臣(岩田宙造君) 私カラモ閣下君ニ御答ヘ申上ゲマス、閣下君ノ述ベテマシタ通り、竊野政權ノ地位ニ立チマシタ我々國ハ、今後武力ト云フモノハ全然ナクナリマスルシ、財力モ

枯竭致シマシテ、是ハ今後武力ト云フモノハ性質上サウデアリマスルガ、財力ノ點ニ於キマシテモ、外國ニ對スル關係ニ於テモ、内閣ダケノ關係ニ於キマシテモ、當分從前ノ地位ノ回復スルト云フコトハ困難ナコトト考ヘマス、從ツテ我々國民ガ對外並ニ對内ノ點ニ於テ其ノ地位ヲ向上シ得ル、今日カラデモ直チニ向上スルコトノ出來ル唯一ノ途ハ、閣下君ノ言ハレマシタ通りニ、正義ヲ發揮スルコト云フコトノミデアルト思フノデアリマス、正義デゴザイマスルナラバ、只今今日カラデモ、若シ我々國ガ世界ニ誇ルダケノ正義ヲ發揮スルコトガ出來マスルナラバ、其ノ點ニ於テ必ズ我々國ハ國際間ニ於テモ相當ノ地位ヲ確チ得ルデアラウト思フノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ、ボツダム宣言ノ線ニ沿ウテ今後我々國ニ於テハ色々ノ努力ガ盡サレルコトト思フノデアリマスガ、今議會ニ於テ衆議院議員選舉法ガ改正サレタノモ、御承知ノ通りニ其ノ一つノ手段ナル法令ガ段々ト改正サレテ來ルコトト考ヘルノデアリマスルガ、如何ニ法令ガ立派ニ完備致シマシテモ、ソレガ適正ニ行ハレナケレバ何ノ役ニモ立タナイコトデアリマスルシ、是ガ公正ニ行ハレルト云フコトハ、是ハ司法權ニ依ツテ保障サレナケレバナラヌノデアリマスルカラ、司法權ノ公正ニシテ強力ナルコトヲ要スルコトハ、今日ニ於テ最モ適切ニ感ゼラレルコトト考ヘルノデアリマス、其ノ司法權ガ公正ニシテ強力ナルコトヲ得ルコト云フコトハ、是ハ其ノ司法權行使ノ任ニ當ル者ノ素質ノ向上ガ大切デアルコトハ申ス迄モ

ガザリマセヌガ、當共ノ機構ノ上ニ於キマシテモ相當ノ地位ヲ有シテ、國民ニ尊敬ノ得ルヤウニナラナケレバナラヌコトモ當然デアリマスルカシ、是ハ是共其閣下君ノ言ハレマシタ通りニ、司法權ノ最高峰ニ立ツテ居リマスル大審院長ノ地位ト云フモノハ、是非其從前ヨリモ一層ハ高クシテ戴カナケレバナラヌト云フコトハ、私共最モ切實ニ感シテ居ル所デゴザイマシテ、是ハ出來ルダケ私共所シマシテハ色々ノ障礙ヲ排シマシテ、是ハ檢察總長ノ問題ハ姑ク措キマシテ、司法權ハ何處迄モ裁判ガ中心デアリマスルシ、從ツテ判事ガ中心デアレバナラヌノデアリマスルカラ、大審院長ノ地位ノ向上ト云フコトニ付キマシテハ、全力ヲ盡シテ出來ルダケ早く實現スルヤウニ努力シタイト考ヘテ居リマス

○閣下議員三郎君 簡單デゴザイマスカラ此ノ席カラ、只今總理大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシタガ簡單デハゴザイマスガ、私共ノ考ト略々同様ノヤウニ承ツタノデアリマス、又只今ノ岩田司法大臣ノ御答辯モ懇切デアリマシテ、寧ろ私共ノ言ヒ足ラヌ所ヲ補ツテ下スツタヤウナ感ガアルノデアリマス、結局司法權ノ尊重ト、獨立ト云フコトヲ希望スル意味ニ於キマシテ、私ハ大審院長ノ地位ヲ高メルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、ドウゾ此ノ實現ガ速カニ行ハレルヤウニ希望シテ已マナイノデアリマス、此ノ問題ハ長イ間ノ寧ろ懸案トモ言ツテ宜イ位ノ問題デアリマスガ、ドウ云フ譯デアルカ、應代ノ政府ガソレヲ實行シナイノデアリマスガ、時代モ變ツテ來テ居リマスルシ、現政府

ハ相當ニ再敢ニ各種ノ改正ヲ行ツテ
オイデデアリマスカラ、現政府ニ於テ
出來ルダケ速カニ御實行アラムコトヲ
希望シテ私ノ質問ヲ終リマス

○議長(公費徳川閣順君) 是ヨリ採決
ヲ致シマス、御異議ガナケレバ、三案
全部ノ問題ニ供シマス、三案トモ委員
長ノ報告通り御異議ゴザイマセマカ
カ

○議長(公費徳川閣順君) 御異議ナ
ト認メマス

○議長(公費徳川閣順君) 此ノ際議事
日程ニ追加シ、農地調整法中改正法律
案ノ第一讀會ヲ續ク開キ、委員長ノ報
告ヲ求メルコトニ御異議ゴザイマセマ
カ

○議長(公費徳川閣順君) 御異議ナ
ト認メマス、委員長稲田男爵

農地調整法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報告候也

昭和二十年十二月十八日
委員長 男爵稲田 昌植
貴族院議長公費徳川閣順殿

○男爵稲田昌植君登壇

○男爵稲田昌植君 農地調整法中改正
法律案特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御
報告申上ゲマス、此ノ法案ヲ政府ガ出
サレタ趣旨及ビ内容ハ過日ノ本會議デ
政府カラ説明ガゴザイマシタ通りデ
アリマスガ、此ノ農地制度ニ關シマスル
改正ハ、歴代ノ政府ガ常ニ希望ヲ持ツ
テ居ツタノデアリマスガ、何セ當面ノ
供出並ニ配給ニ迫ハレテ居リマシテ、
土地ヲ基本ト致シマスル農業デアル限

リ、農地ニ關スル改革ガ最も緊急デア
ルコトハ知リナガラ、ツヒ今迄實現ノ
機會ニ得ナカッタサウデアリマス、ソ
レガ今因ノ救済後地主主義ノ主義ヲ採
入レマシテ今因ノ提案ニナツタノデア
リマス、決シテ一夜漬ケノモノデハナ
イトノ御趣旨モ伺ツタノデアリマス
ガ、其ノ内容ハ主ナ點ハ三ツゴザイマ
ス、其ノ一ツガ自作農制ノ強化デア
リ、其ノ二ツガ自作農制ノ強化デア
リ、其ノ三ツガ農地委員會ノ刷新デア
リ、以上ノ提案ノ趣旨及ビ内容ハ盛ッ
タ此ノ改正法律案ハ或ハ今期議會ニ提
案サレマシタ三大法案ノ一デアリ、或
ハ訓期的ノ立法デアルトノ鳴物入ト云
ツテハ少シ語弊ガアリマスガ、大分肩
書ガ附イテ居リマス、從ツテ質問者モ
多數デアリ相當ノ時間ヲ要シタノデア
リマス、從ツテ其ノ質問ノ内容はカ
ラ御報告申上ゲルノデアリマスガ、先
程委員會ガ漸ク終了シタバカリデア
リ、且委員長デアツタ私ノ力モ足りナ
イ故モアリ、全部ノ御質疑ヲ此處デ御
披露スル譯ニハ參ラナイ、從ツテ委員
各位ノ非常ナ貴重ナル質問モ或ハ省略
ノ已ムヲ得ナイ結果ニナルカモ存ジマ
セヌ、從ツテ細カキ點ヲ速記録ニ譲リ
マス同時ニ、重要ナル質問モ速記録
デ御覽ヲ願フコトニナラウカト思ヒマ
ス、ドウゾ此ノ點惡シカラズ御了承ッ
願ツテ置キマス、御質疑ノ内容ハ大體
項目別ニ御報告申上ゲタイト存ジマス
ルガ、其ノ一ツハ法案ノ字句其ノモノ
ニ關係ナク、此ノ農地調整法改正案ヲ
通ジマシテ、農村、或ハ食糧、或ハ憲法
トノ關係ナドノ質疑ガ第一種ノ質疑ト
致シマスレバ、第二種ノ質疑ト致シマ
スルモノハ、所謂法案其ノモノニ直接

關係アルモノ、此ノ大體ニツニ分ケテ
御報告申上ゲタイト存ジマス、其ノ
第一種ノ方ノ所謂將來政府ハ農村、或
ハ農民ナドニ對シタル太極ハドウカ
ト云フモノハ如何ナル點ニ對シテア
リマスガ、諸君將來政府ハ農民ヲ要ス
ルカ、如何ナル點ニ對シテ農民ヲ要ス
ルカ、或ハ更ニ具體的ニ言フバ米ノ專賣
ハドウカ、土地ノ所有ハドウカト云フ
ヤウナ御質疑ニ對シマシテ、政府ノ答
辯ハ、要スルニ將來ノ農村、農民ト云
フモノハ、所謂國ノ健全ナル農
民ヲ作ルニアルノデアアル、而モ恆産ヲ
持タセテ生活ノ改善向上ニ資スル積リ
デアアル、且此ノ法案ガ通リマス大體
其ノ目的ハ達セラレルヤウニ思フ、更
ニ米ノ專賣ニ付キテハ、只今明言スル
限りデハナイノデアリマスガ、要スル
ニ現在ノ主要食糧ノ統制ハ恐クハ將來
ト雖モ後退スルコトハナイト思フ、且
土地ノ國有ト云フ方法ニ依ラズシテ、
農地調整ノ方法デ今因ノ提案ニナツタ
モノデアルト云フヤウナ御質疑ガアツ
タト存ジテ居リマス、ソレカラ憲法ノ
改正ニ付キマシテハ、憲法ニ於キマス
ル所謂所有權ノ不可侵權ト抵触スルコ
トガナイカト云フ御質疑ニ對シマシ
テ、政府ノ答辯ト致シマシテハ、憲法
上ニ於キマスル此ノ公益ニ關ス
ル解釋ハ、近來大分廣義ニ解釋
サレテ來テ居ルノデアリマス、
今回ノヤウナ價格ヲ決メテノ公
用徵收トモ見ラレベキモノモ必ズシモ
先例ノナイ譯デハナイノデ、決シテ憲
法ニハ抵触シテナイト云フコトヲ確信
スルト云フ御答辯デアリ、更ニ其ノ次
ノ憲法關係ノ御質疑ノ兵役ノ義務ト云
フモノハ、將來勿論ナクナルノデアアル

ガ、合算増進上憲法ニ勞務ノ義務ト云
フヤウナモノノ規定ノ位置ハドウカ
ト云フ御質問ニ對シマシテハ、政府側
ニ於ケレマシテハ之ニ同意スルモ、ラ
テ居ツタノデアリマス、次ニハ第二種
ノ質問、諸君法案其ノモノニ付テノ御
質問ノ御紹介ニ移リマスノデアリマス
ガ、第一ハ食糧増進ノコトデアリマ
ス、但シ是ハ豫算委員會ニ於ケル御
質疑ト或モ重疊致シマスノデ、成ルバ
ク重複ヲ避ケテ要點ヲ御紹介申
上ゲマス、政府ハ聯合國ノ許可ヲ得
テ三百萬トンノ食糧ヲ輸入スルコト云
フコトデアアルガ、其ノ何處カラ取
來ルカ、其ノ見返品或ハ穀類力ノ關係
ハドウデアアルカト云フ御質疑ニ對シマ
シテハ大體東亞方面ニ於テ百五十萬
トンノ輸入ヲ見込シテ居ルガ、滿
洲、朝鮮、暹羅、及ビ荷印、泰方面ニ於
ケルモノヲ總テ引括メテ積之ニハ足
リナイ懸念ヲ持ツテ居ル、從ツテ是レ
以外ノモノハ小麥ニ賴ラサルヲ得ナ
イ、小麥ト致シマスレバ、世界ノ產國
デアリマス、「カナダ」、「アメリカ」、
「アルゼンチン」、澳洲デアリマスガ、
其ノ内大體南半球ハ本年ハ不作デアリ
マスガ故ニ、多大ヲ期待スル譯ニハ
イカナイ、從ツテ「アメリカ」及ビ「カナ
ダ」カラ相當ノ小麥ヲ入レテ、三百萬
トンノ輸入力ハ盡力ヲシテ居ル、併
シ其ノ船モ不足デアリマスノデ、是ハ
「チャーター」ニ依ラザルヲ得ナイ、見
返品ニ付キマシテハ農村ニ特ニ關係深
イモノハ生絲デアアル、今年ノ生絲ハ三
萬五千噸程度ノモノシカ役立ツコトガ
出來ナイト思フノデアリマスガ、來年
ノ生絲額モ入レテ、十五萬噸位ノモノ
ハ之ノ方ニ向ラレコトガ出來ルデア

ラウ、斯ウ云フ御答辯デアリマス、次
ハ新舊農地ノヤウナ方法ヲ講ジテ小
作農ヲ自作農ニ化シテモ、從來ノ例ニ依
リマスルト云フ、自作農ニ化シテモ、例
ナカク、困難デアアルガ故ニ、新シイ目
作農ヲ作りマシテモ、直チニ其ノ日カ
ラ小作農ニ再ビ墮落スル虞ガナイノデ
アラウカ、此ノ點ハドウ考ヘルカト云
フ御質疑ニ對シマシテ、是ハ一方米價
ノ改訂ヲ中心トシテ、新々ナル自作農
家ノ生計ヲ豐富シ、同時ニ農村工業
ノ振興ヲ採入レテ更ニ其ノ點ヲ
強化シ、第三ニハ、經營ノ科學的合理
化ヲ行ツテ、再び小作農ニ墮落スルコ
トヲ防グ積リデアアル、斯ウ云フ御答
辯デアリマス、ソレカラ其ノ次ニ今回
ノ農地調整法ヲ見マス、ドウモ小作
人ノ御方ノ肩ヲ持ツ遊ギル、種々ノ
價格ノ調整及ビ種々ノ點カラ云ツテ、地
主ハ極メテ不利デアアルマイカ、此ノ
點ニ對スル御質疑ハ相當多數デアリマ
シタノデアリマス、政府側ノ御答辯ハ、
今回ノ提案ニ對シテ小作人ノ肩ノミヲ
持ツタモノデハナイ、兩者ノ色々ノ事
持ツタモノヲ提シテ作ツタモノデア
リ、物價騰貴ナル點ハ已ムヲ得ナイ
ノニ拘ラズ、買收價格ガ現在ノ價格ニ
依ツタコト云フコトハ如何ナモノデア
ルカト云フ御質疑ニ對シテモ、大體此ノ邊
デ公平ヲ期シ得ラレルモノト思フコト云
フヤウナ御答辯ガアツタノデアリマ
ス、其ノ外小作農ヲ自作農ニ致シマス
ル目標トシテ、所謂從來農家トノ關
係、或ハ賣渡シ價格ノ凍結ノ問題、其
ノ他種々非常ニ深山ノ質問ガゴザイマ
シタノデアリマスガ、是ハ先程申シ
マシタ通り速記録ニ譲ラシテ戴キ
タイト思ヒマス、以上ノヤウナ各種ノ

御質疑アリマシタ後、採決ニ移リマシタノデアリマスルガ、採決ニ當リマシタハ、政府提案ノ原案ヲ衆議院デ修正セラレテ居リマス、其ノ修正ノ要點ハ、五六箇所アルノデアリマスルガ、主ナ點ハ二箇所デアリマス、即チ其ノ一ツハ、小作料ガ金納一本建ニナツテ居リマシタモノヲ、衆議院ニ於キマシテハ物納ヲモ認メ二本建トシマシタ點ト、農地委員會ガ地主、小作及自作農各五人ヅ、十五名ヲ以テ組織セラレテ居リマスノヲ、其ノ市町村内ノ德望、名望アリマス者ヲ更ニ三名入レテ十八名ニ致シマシタ、此ノ二點ヲ主ナモノトシテ、之ニ關スル字句ノ修正ナドガ衆議院ノ修正ノ全部ト考ヘテ宜シノデアリマス、此ノ衆議院ノ修正案ヲ議題ト致シマシタ處、滿場一致可決確定ヲ見タノデアリマス、以上デ御報告ヲ終リマスガ、更ニ其ノ際一委員カラ希望ノ意見ガ討論ノ時ニ出タノデアリマスガ、ソレハ二項目アリマシタ、詰リ地主、小作人雙方ノ希望ヲ適當ニ調整シテ民間ノ協力ヲ得テ之ガ實施ニ當ツテ實ヒタイト云フ所ガ一ツ、モウ一ツハ農村指導ニ當リマシテハ、特ニ格段ノ意ヲ用ヒテ我ガ國農民本來ノ醇風美俗ノ德性ヲ失ハナイヤウニシテ實ヒタイト云フ希望ノ意見ヲ述ベテ贊成意見ガアリ、且此ノ討論ノ際デハゴザイマセヌガ、質疑ニ當リマシテモ、其ノ質疑ノ中ニ此ノ法案ノ運營ニ當リマシテハ、特ニ慎重ナ態度デ運營ニ當ツテ實ヒタイ、無理ニ無理ヲ重ネルコトハ極力避ケテ實ヒタイト云フヤウナ御希望モ出タコトヲ申添ヘテ置キマス、最後ニ更ニ一言申添ヘテ置キタイコトハ、此ノ法案ガ衆議院デ審

議最中聯合國司令部側カラ、所謂農民解放ニ關スル指令ガ出テ居リマシタ、其ノ指令ト此ノ法案トノ關係ニ於キマシテハ、其ノ指令ノ中ニアリマスル或項目ハ既ニ此ノ法案ノ中ニ盛ラレテアリマシタ、更ニ殘リノ數箇條ハ、是カラ善處ヲスルコトガ出來ルノデアリマス、決シテ聯合國司令部ノ指令ト此ノ法案トハ抵觸スルモノデハナイト云フ政府側ノ意見ヲ申添ヘテ、私ノ御報告ヲ終リタイト思ヒマス

○議長(公爵徳川國順君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵徳川國順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川國順君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵徳川國順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川國順君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後三時四十八分散會

